

杉並区高齢者実態調査報告書

高齢者の生活実態と意識に関する調査

介護保険に関する調査

概要版

この報告書は、平成22年9月から11月にかけて杉並区が実施した「高齢者の生活実態と意識に関する調査」「介護保険に関する調査」の報告書を概要版としてまとめたものです。

平成23年3月 杉並区

報告書の見方

- ・ 基数となるべき実数（ n ）は、設問に対する回答者数である
- ・ 四捨五入の関係で各構成比の合計が100%にならない場合がある
- ・ 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある

【高齢者の生活実態と意識に関する調査】 調査の概要

1. 調査目的 保健福祉計画改定及び今後の高齢者施策のための基礎調査（ひとり暮らし、ねたきり、夫婦のみ世帯の出現率、介護予防の意識等の把握）
2. 調査対象 杉並区在住の60歳以上の区民から無作為抽出した5,100人
（男性2,550人、女性2,550人）
3. 調査方法 郵送配布、郵送回収
4. 調査期間 平成22年9月6日～9月30日
5. 回収結果 回収数（票）：3,564件（回収率69.9%）うち、自宅生活者3,393人
6. 調査内容 <この概要版では 印のついた設問について紹介しています。>

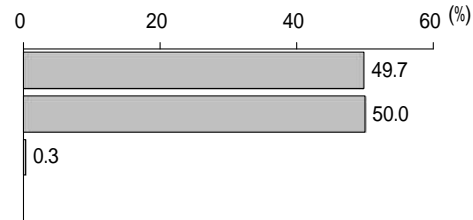
(1) 対象者の属性について	健康や医療、福祉にかかわる情報の入手先
記入者・ご本人の居場所	メール・インターネットの利用状況
入院先の医療機関の所在地	近所の方との付き合いの頻度
性別・年齢	外出頻度
居住年数	現在、行っている活動
(2) 家族の状況について	生きがいの有無
世帯の状況	今後やってみたいこと
日中の同居家族	(6) 健康について
親族の方との会話や連絡の頻度	健康に気を使っていること
(3) 暮らし向きについて	悩みやストレス
主な収入の種類	悩みやストレスの原因
昨年1年間の世帯の収入額	相談相手
昨年1年間の本人の収入額	日常生活自立度
就労状況	(7) 介護について
収入を伴う仕事の種類	介護保険の認定状況
今後の就労意向	介護サービスと保険料のあり方
(4) 住まいについて	(8) 高齢者施策について
住居形態	「地域のたすけあいネットワーク」の利用意向
介護が必要となった場合に希望する住まいの形態	ケア24の認知度
現在の住まいでの在宅介護の可能性	ケア24の利用状況・利用内容
施設に入った場合に負担可能な月額費用	介護予防事業の認知度
自宅介護のために必要なサービス	長寿応援ポイントの認知度
(5) 日頃の暮らしについて	長寿応援ポイントの参加状況、活動内容
主観健康感	今後充実すべき高齢者施策
日常生活の状況	(9) 自由回答

【高齢者の生活実態と意識に関する調査】調査結果

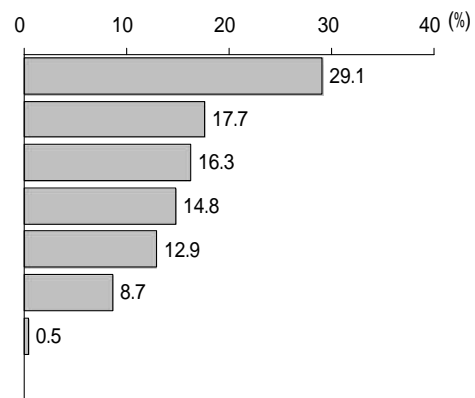
(1) 対象者の属性

性別・年齢(問3)

	基数	構成比
男性	1,686	49.7%
女性	1,696	50.0%
無回答	11	0.3%
全体	3,393	100.0%

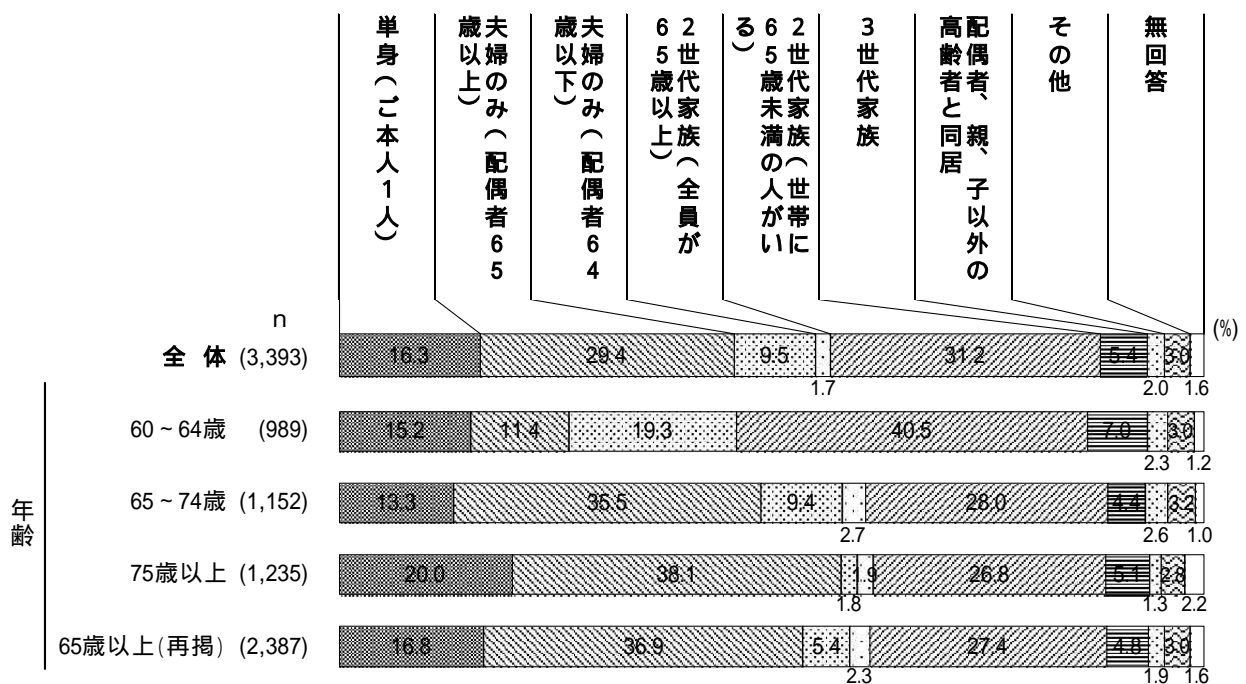


	基数	構成比
60～64歳	989	29.1%
65～69歳	599	17.7%
70～74歳	553	16.3%
75～79歳	503	14.8%
80～84歳	438	12.9%
85歳以上	294	8.7%
無回答	17	0.5%
全体	3,393	100.0%



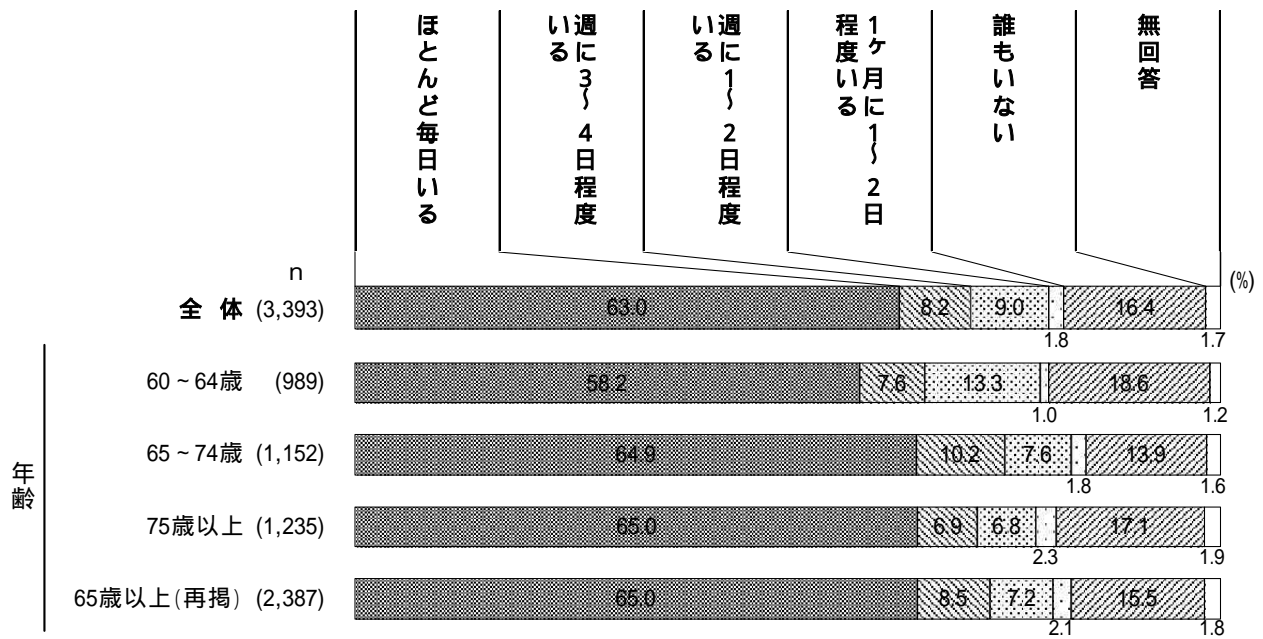
(2) 家族の状況について

世帯の状況(問6)



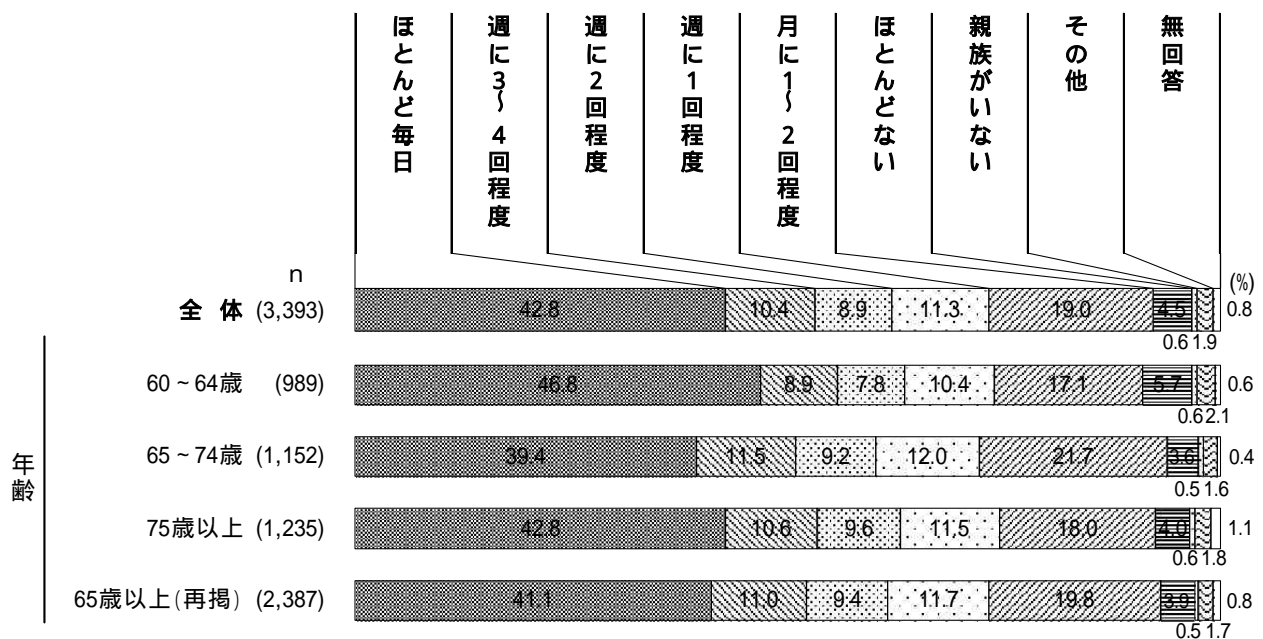
日中の同居家族(問7)

日中の同居家族は、「ほとんど毎日いる」の割合が63.0%で最も多くなっている。



親族の方との会話や連絡の頻度(問8)

親族との会話・連絡の頻度は、「ほとんど毎日」の割合が42.8%で最も多くなっている。

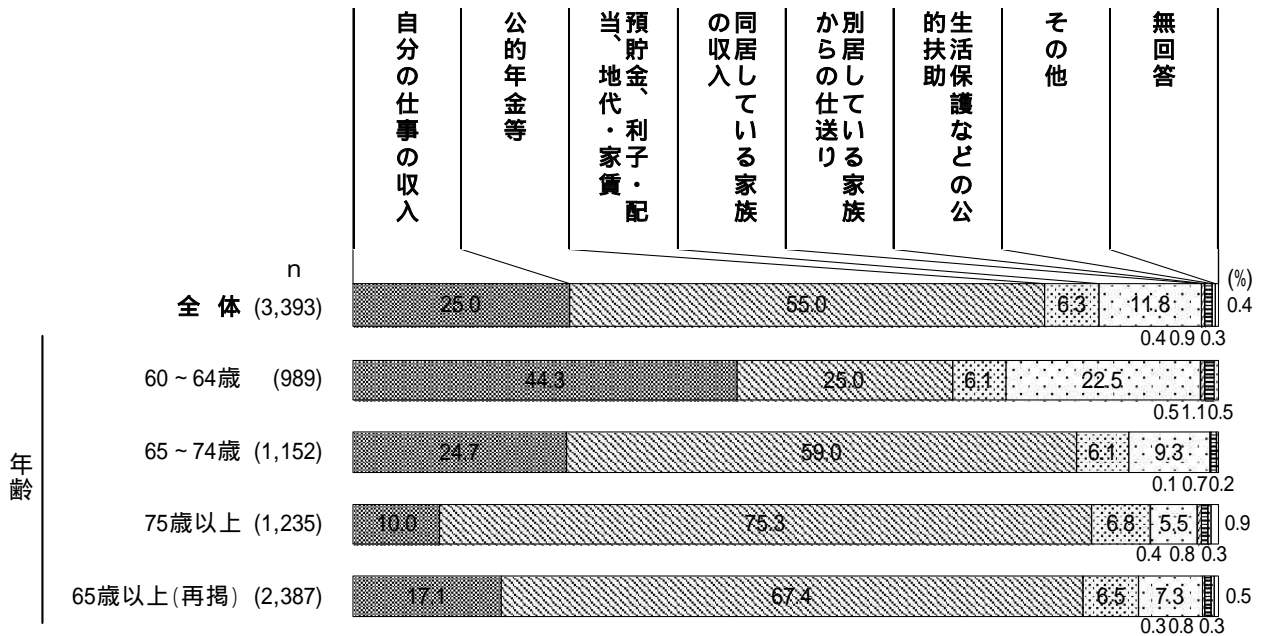


(3)暮らし向きについて

主な収入の種類(問9)

生活を支えている収入は、「公的年金等」の割合が55.0%で最も多くなっている。

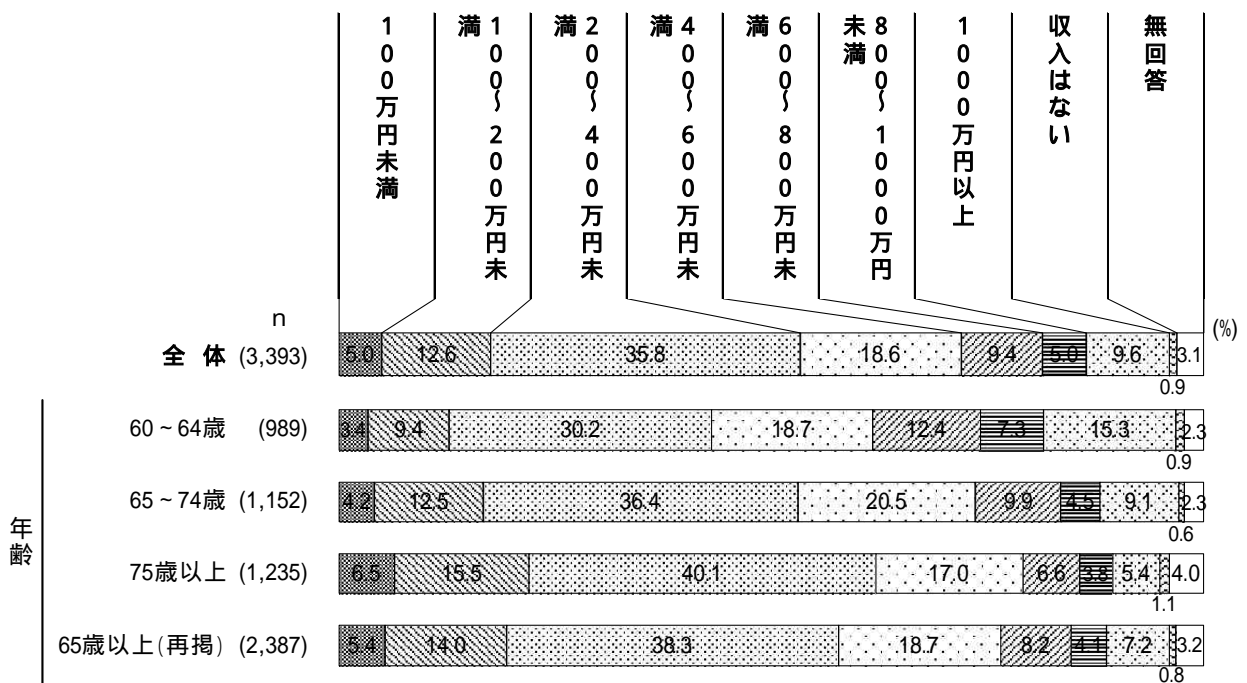
年齢別で見ると、60～64歳の場合は「自分の仕事の収入」が最も多いが、65歳以上になると、大部分の方が「公的年金等」となっている。



昨年1年間の世帯の収入額(問10)

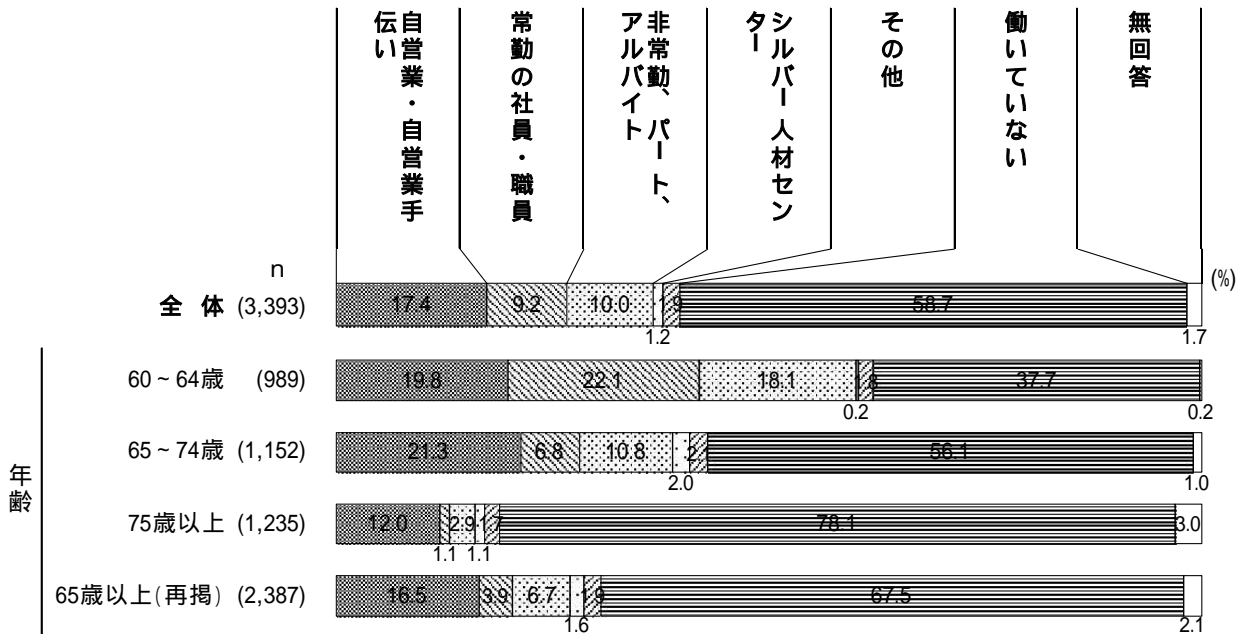
世帯の収入は、「200～400万円未満」の割合が35.8%で最も多く、400万円未満の方で全体の53.4%を占める。

年齢別で見ると、年齢が上がるほど、世帯年収は低くなっている。



就労状況(問12)

就業状態は、「働いていない」の割合が58.7%で最も多く、以下、「自営業・自営業手伝い」(17.4%)、「非常勤、パート、アルバイト」(10.0%)の順となっている。

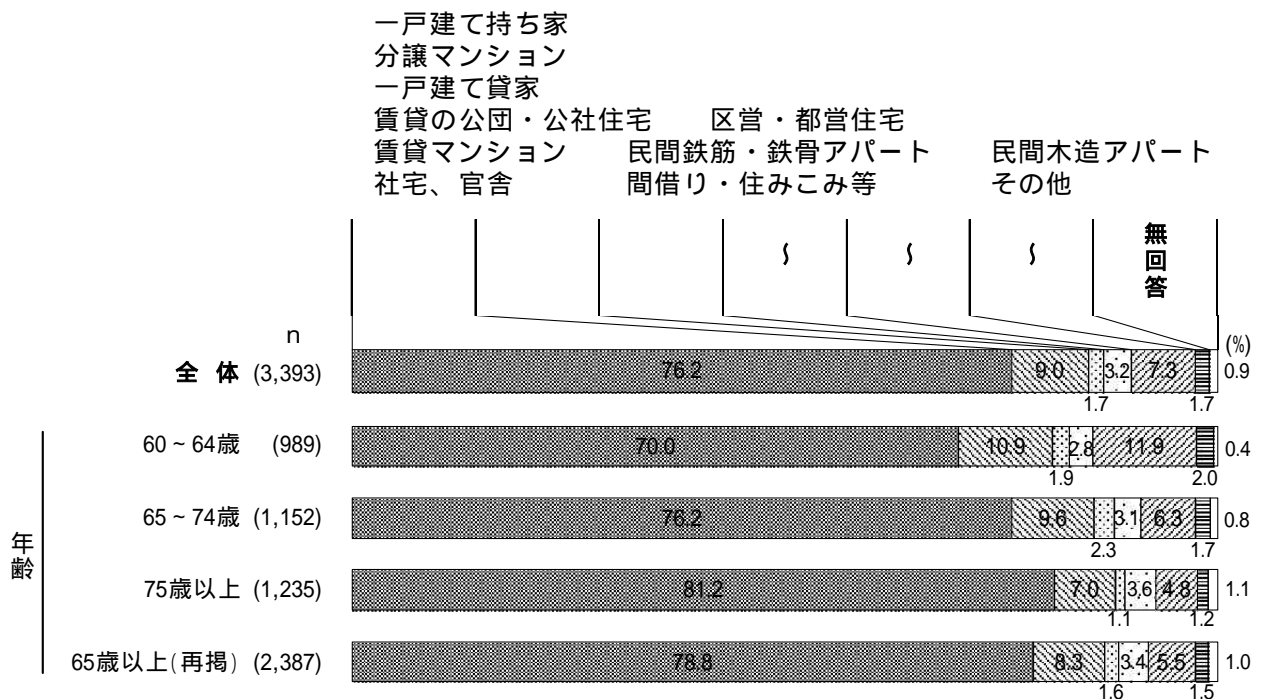


(4) 住まいについて

住居形態(問14)

住居形態は、「一戸建て持ち家」の割合が76.2%で最も多くなっている。

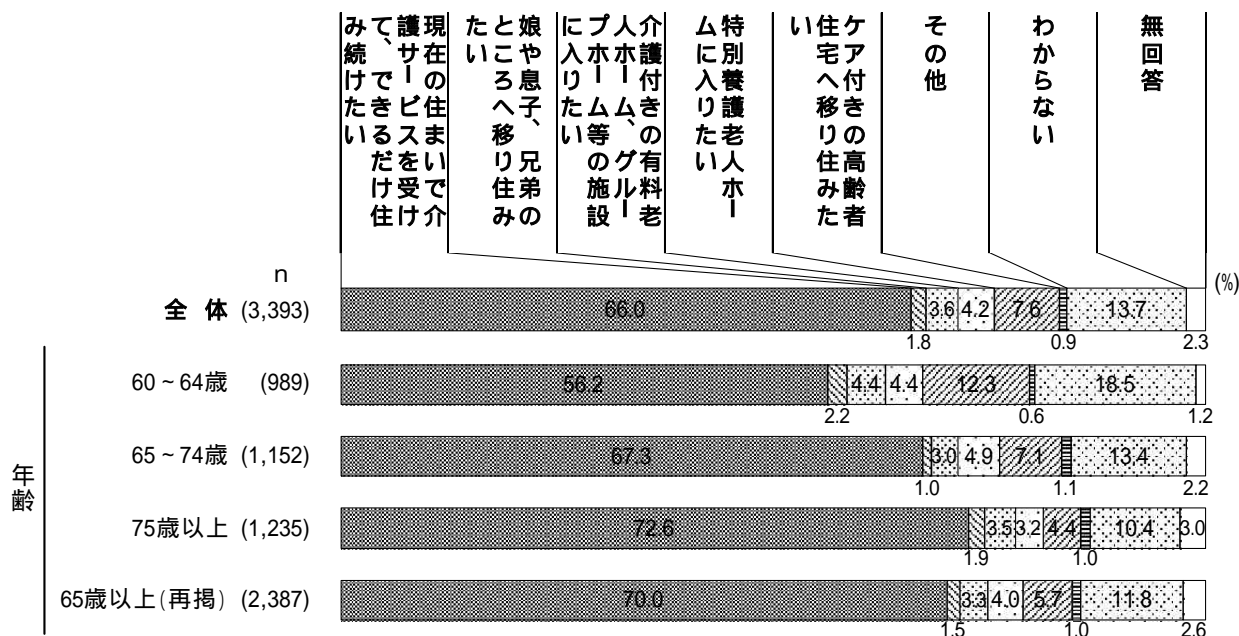
年齢別で見ると、年齢があがるほど、一戸建て持ち家の割合が増えている。



介護が必要になった場合希望する住まいの形態(問15)

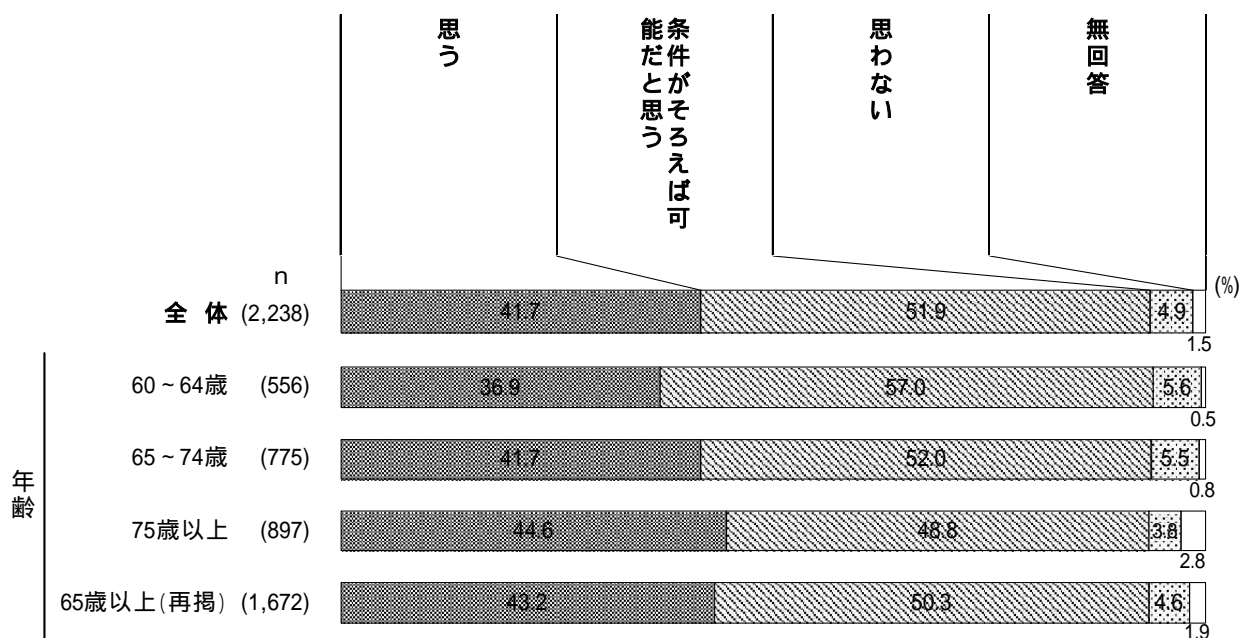
将来希望する介護形態は、「現在の住まいで介護サービスを受けて、できるだけ住み続けたい」の割合が66.0%で最も多く、約3人に2人の割合であった。

年齢別で見ると、年齢があがるほど、「現在の住まいで介護サービスを受けて、できるだけ住み続けたい」が増えている。



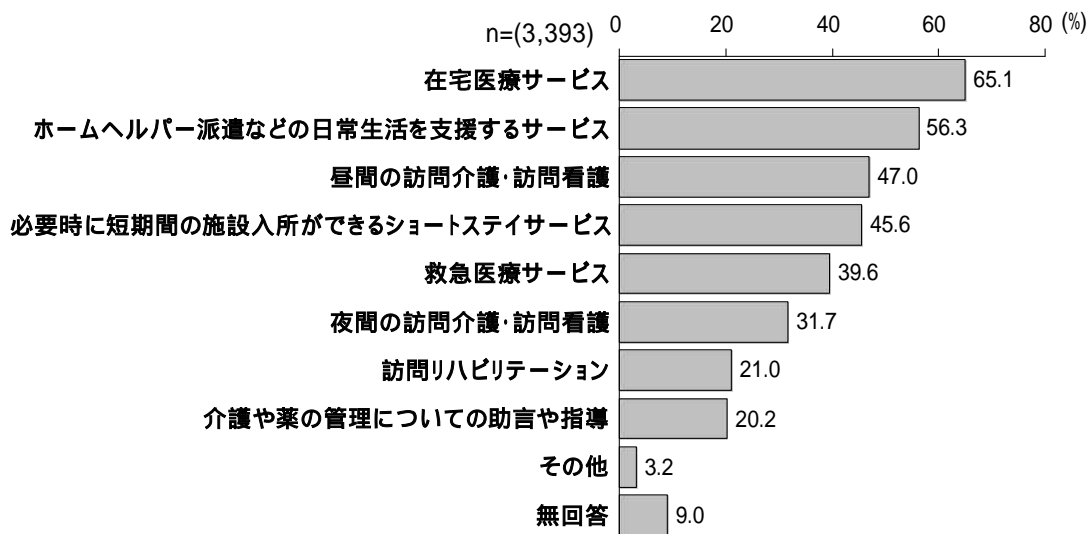
現在の住まいでの在宅介護の可能性(問15 - 1)

現在の住まいで介護を受けての生活の可能性は、「条件がそろえば可能だと思う」の割合が51.9%で最も多く、以下、「思う」(41.7%)、「思わない」(4.9%)の順となっている。



自宅介護のために必要なサービス(問16)

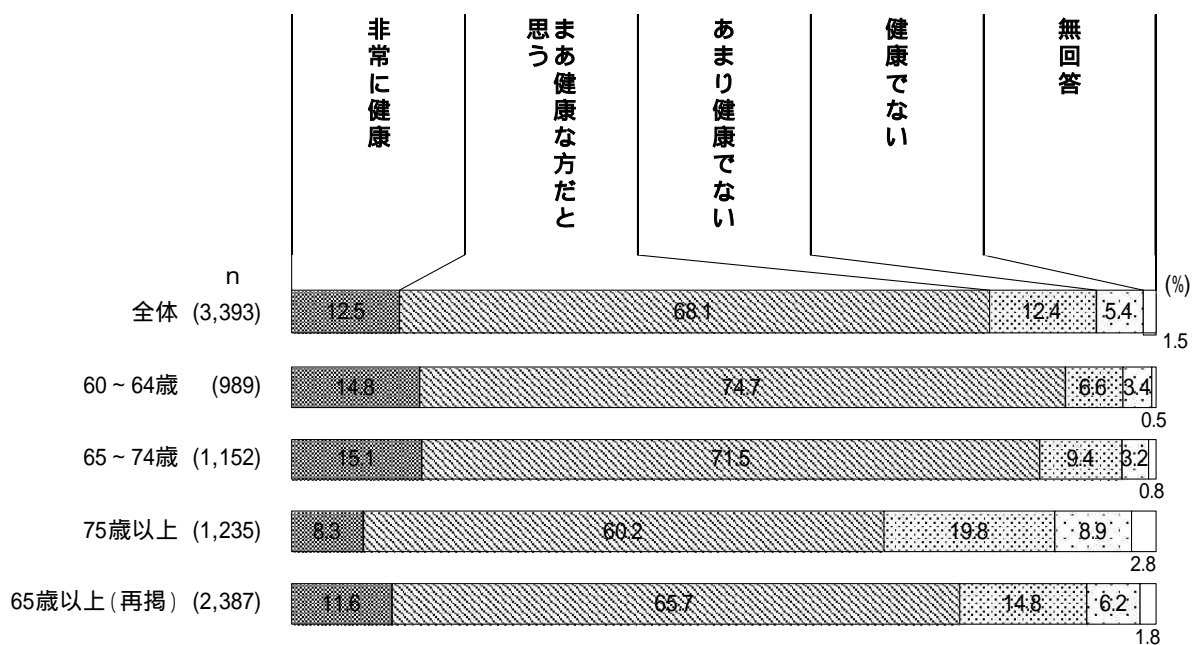
自宅介護のために必要なサービスは、「在宅医療サービス」の割合が65.1%で最も多く、以下、「ホームヘルパー派遣などの日常生活を支援するサービス」(56.3%)、「昼間の訪問介護・訪問看護」(47.0%)の順となっている。



(5) 日頃の暮らしについて

主観的健康感(問17-1)

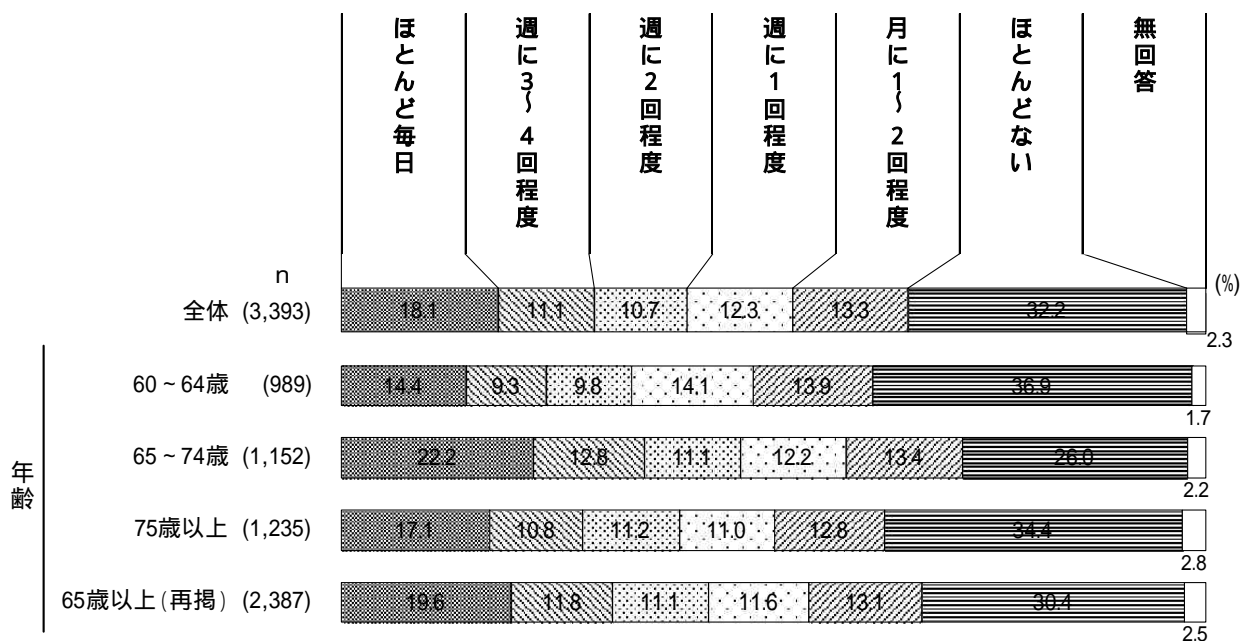
主観的健康感は、「まあ健康な方だと思う」の割合が68.1%で最も多く、これに「非常に健康」(12.5%)を合わせると、80.6%が《健康(計)》と回答している。



近所の方との付き合いの頻度(問20)

近所付き合いは、「ほとんどない」の割合が32.2%で最も多くなっている。

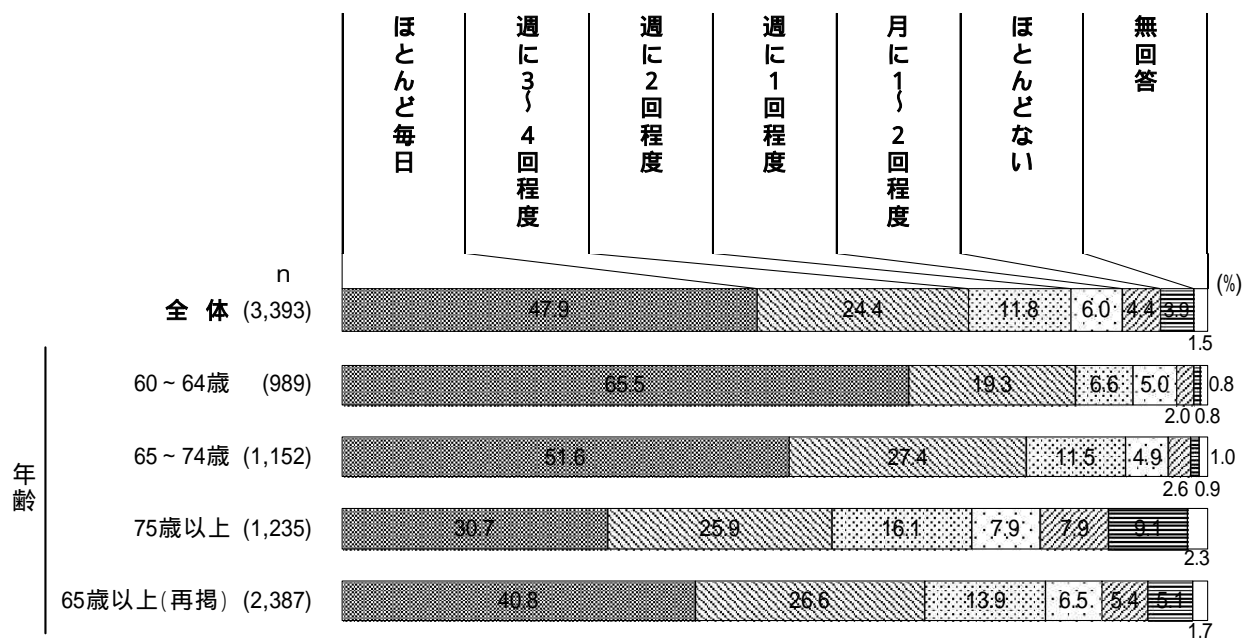
年齢別で見ると、60～64歳の場合、「ほとんどない」が36.9%だが、65～74歳になると、「ほとんど毎日」「週に3～4回程度」が増えて、近所づきあいの頻度が多くなる。



外出頻度(問21)

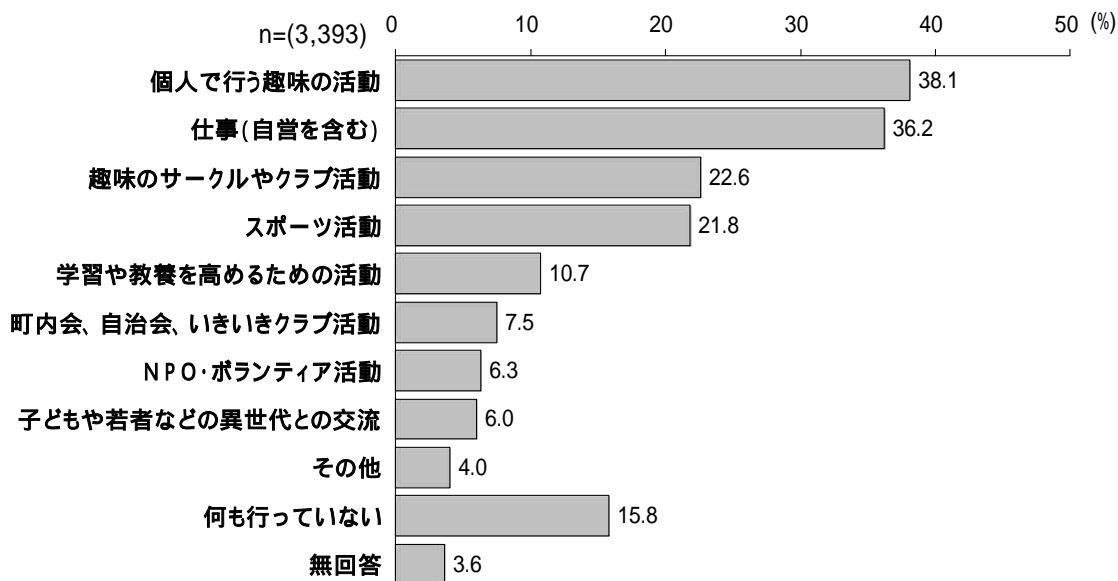
外出頻度は、「ほとんど毎日」の割合が47.9%で最も多くなっている。

年齢別で見ると、週1回以上外出している割合は、65～74歳の場合で95.4%、75歳以上でも約8割となっている。



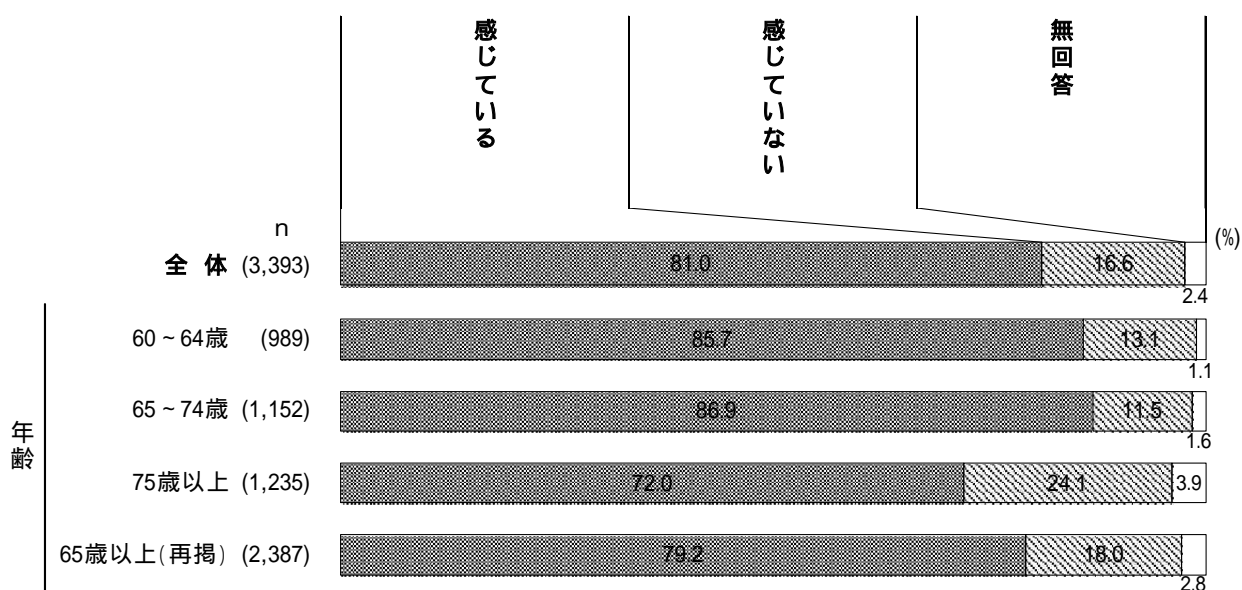
現在、行っている活動(問22)

現在の活動は、「個人で行う趣味の活動」の割合が38.1%で最も多く、以下、「仕事(自営を含む)」(36.2%)、「趣味のサークルやクラブ活動」(22.6%)の順となっている。



生きがいの有無(問23)

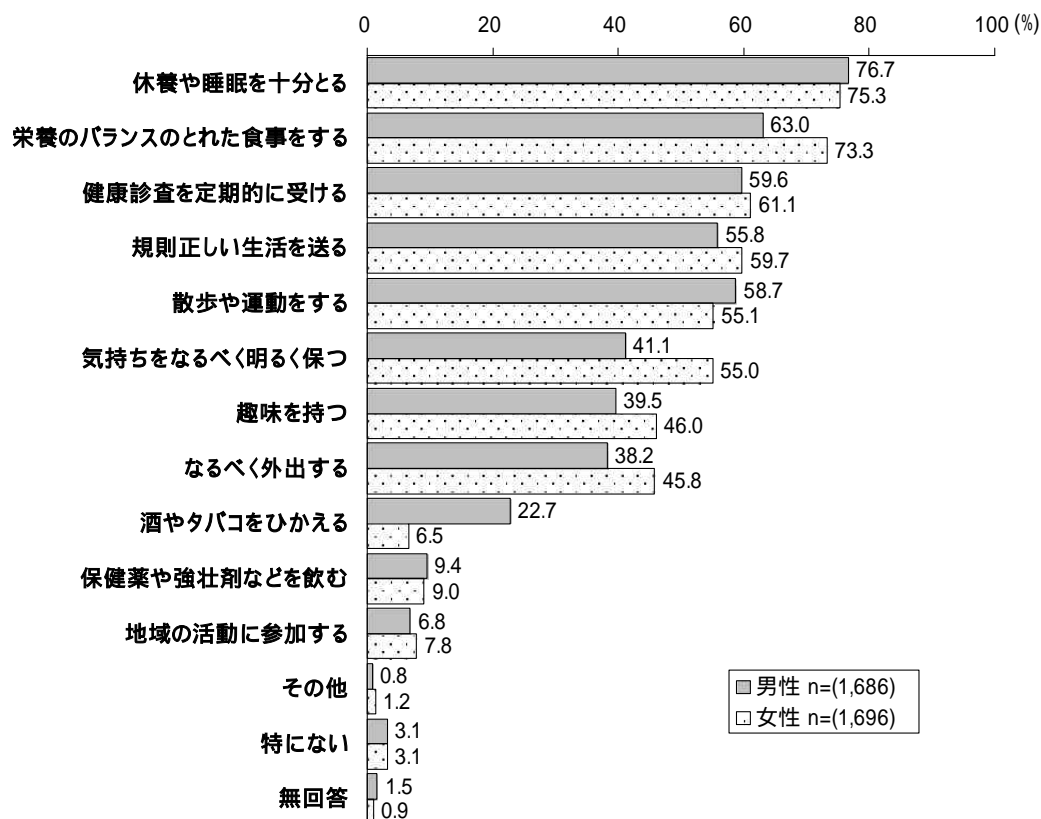
生活に生きがいを感じるかは、「感じている」(81.0%)、「感じていない」(16.6%)となっている。



(6)健康について

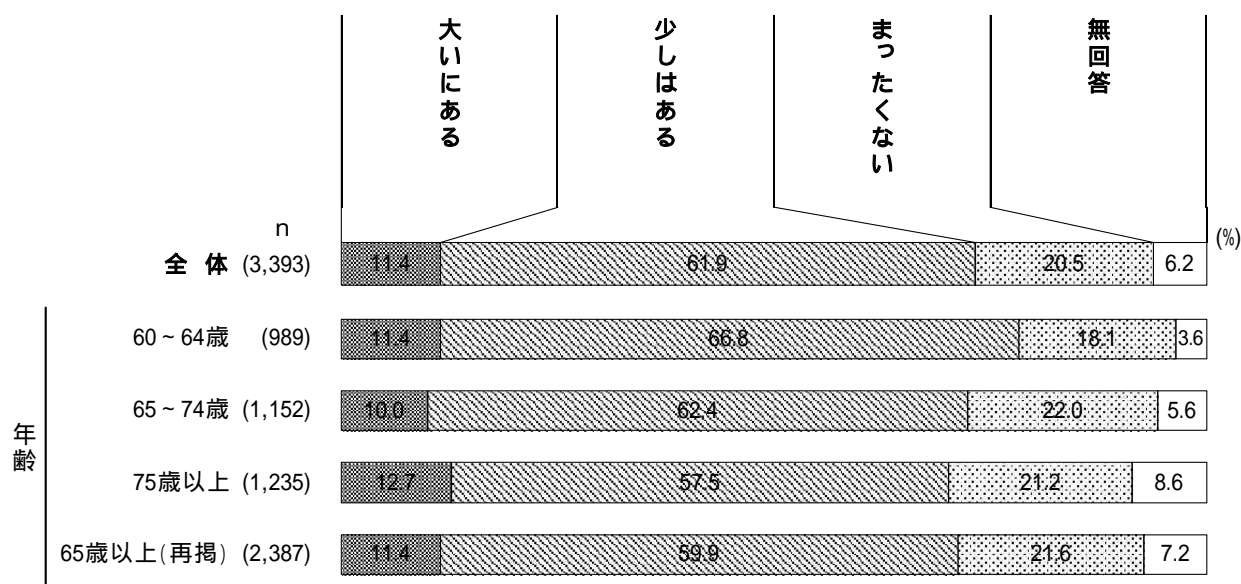
健康に気を使っていること(問25)

健康に気を使っていることは、性別で見ると、男女差の大きい内容として、「酒やタバコをひかえる」「気持ちをなるべく明るく保つ」があげられ、前者は男性のほうが16ポイント多く、後者は女性のほうが14ポイント多くなっている。



悩みやストレス(問27)

コメント悩みやストレスの有無は、「少しはある」の割合が61.9%で最も多くなっている。年齢別で見ると、年齢があがるほど、悩みやストレスの割合は減少している。

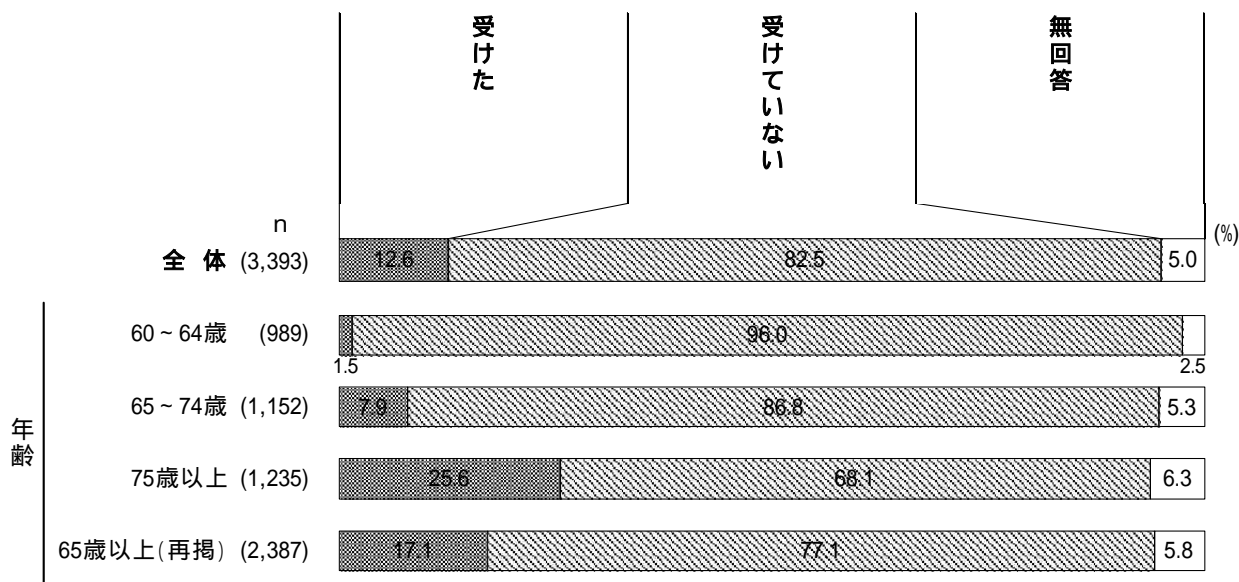


(7) 介護について

介護保険の認定状況 (問29)

介護保険の認定は、「受けていない」(82.5%)、「受けた」(12.6%)となっている。

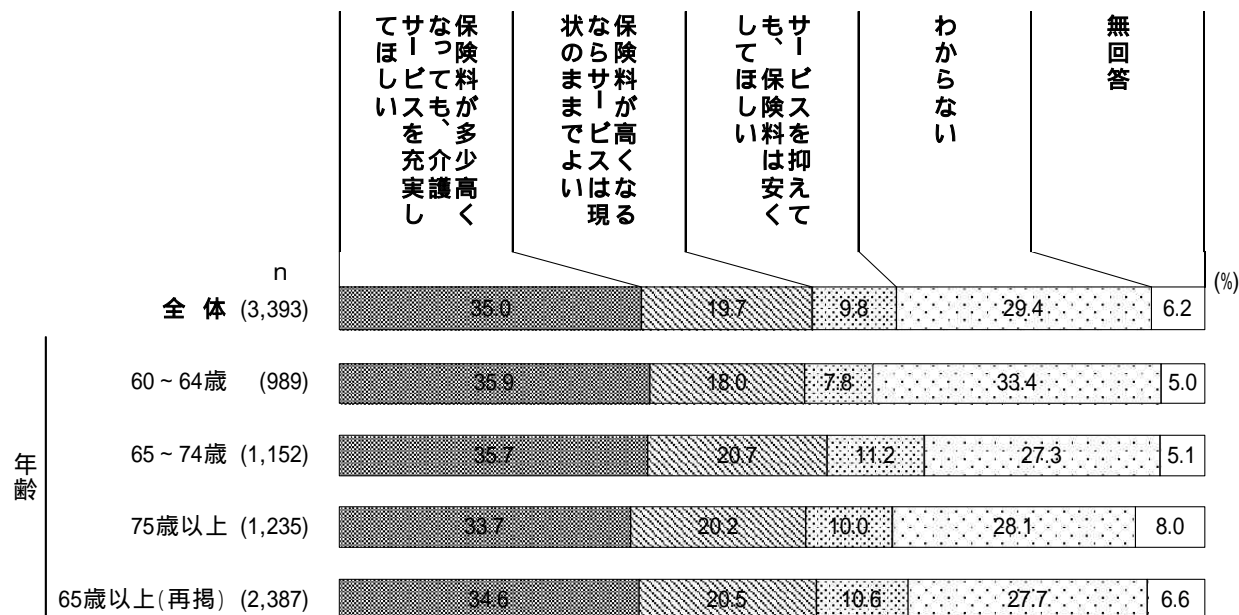
年齢別で見ると、介護保険の認定を「受けた」割合は、75歳以上で25.6%と急に多くなり、約4人に1人の割合となっている。



介護サービスと保険料のあり方 (問30)

介護サービスと保険料のあり方については、「保険料が多少高くなっても、介護サービスを充実してほしい」の割合が35.0%で最も多くなっている。

年齢別で見ると、どの年齢層とも「保険料が多少高くなっても、介護サービスを充実してほしい」の割合が多くなっている。

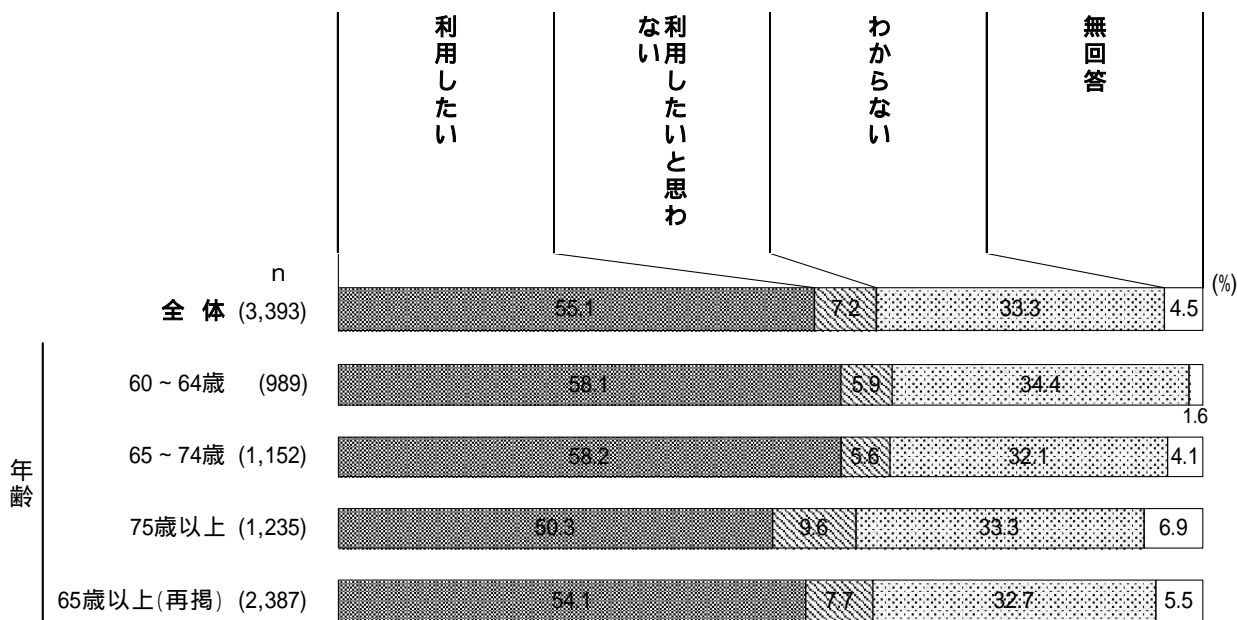


(8) 区の高齢者施策について

「地域のたすけあいネットワーク」の利用意向(問31)

「地域のたすけあいネットワーク」の利用意向は、「利用したい」の割合が55.1%で最も多くなっている。

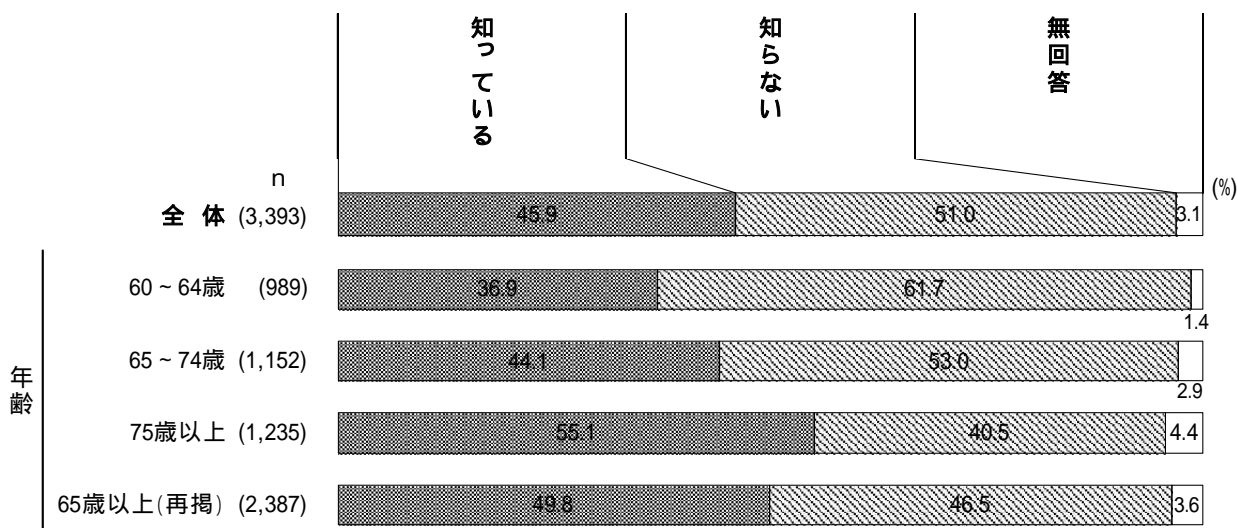
年齢別で見ると、地域のたすけあいネットワークを「利用したい」方は全体に比べて、60～64歳と65～74歳で多くなっている。



ケア24の認知度(問32)

ケア24の認知は、「知らない」(51.0%)、「知っている」(45.9%)となっている。

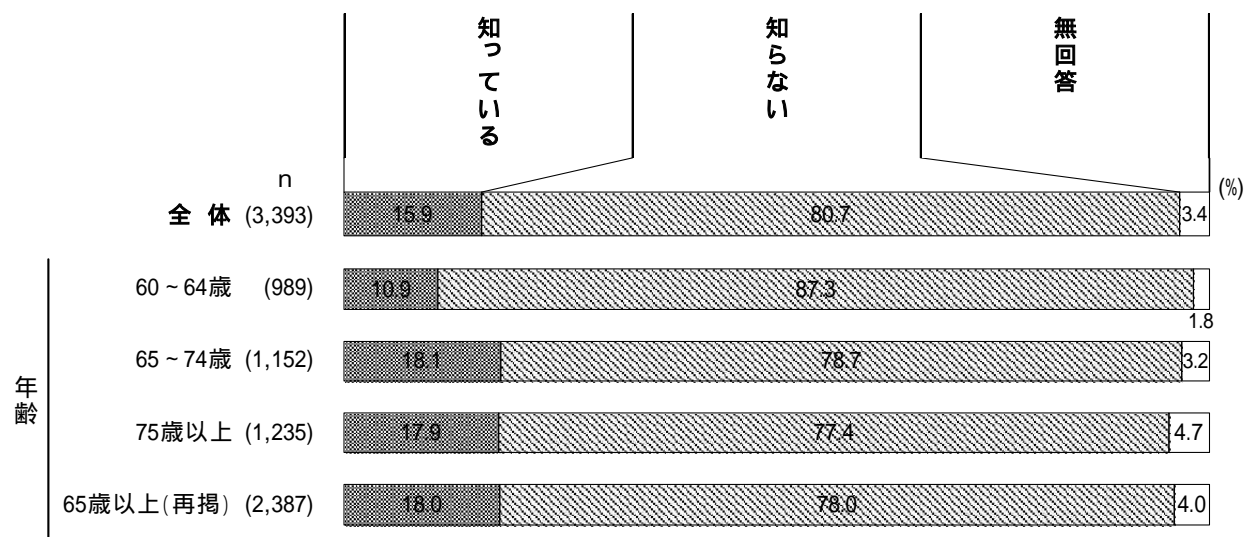
年齢別で見ると、年齢があがるほど、ケア24の認知度も高くなっている。75歳以上の認知度は半数を超える。



長寿応援ポイントの認知度(問33)

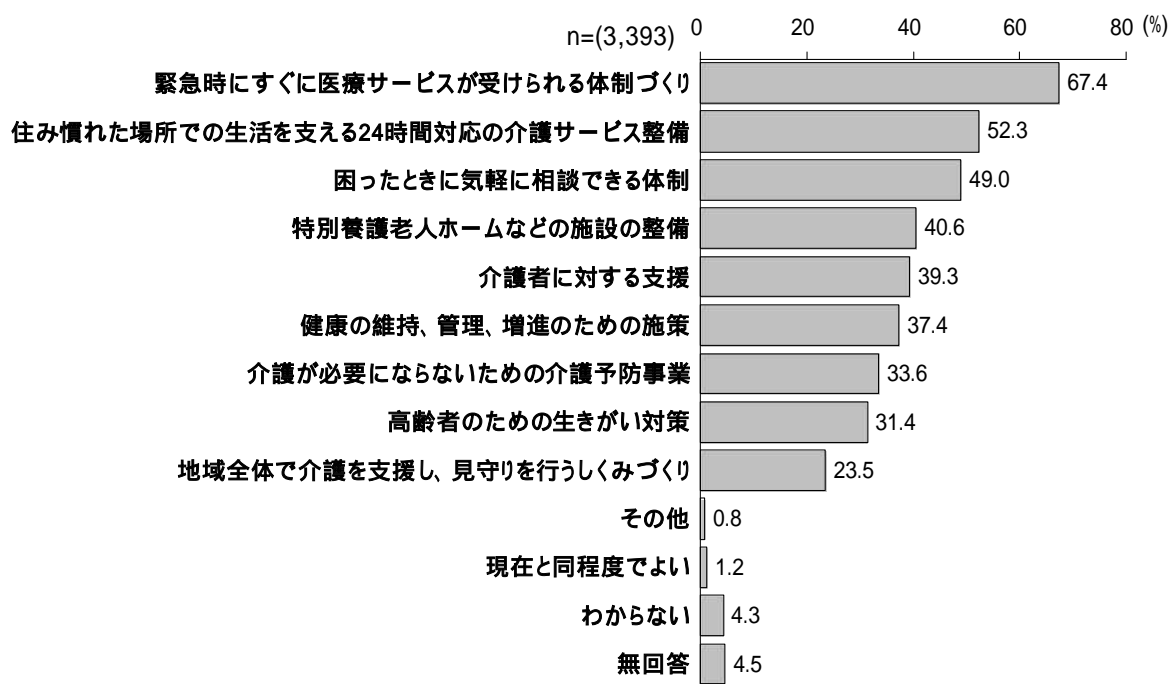
「長寿応援ポイント事業」の認知は、「知らない」(80.7%)、「知っている」(15.9%)となっている。

年齢別で見ると、長寿応援ポイント事業の認知度は、65歳以上になると、若干増加している。



今後充実すべき高齢者施策(問36)

充実すべき高齢者施策は、「緊急時にすぐに医療サービスが受けられる体制づくり」の割合が67.4%で最も多く、以下、「住み慣れた場所での生活を支える24時間対応の介護サービス整備」(52.3%)、「困ったときに気軽に相談できる体制」(49.0%)の順となっている。



【介護保険に関する調査】 調 査 の 概 要

1. 調査目的 介護保険事業計画の改定のための基礎調査
2. 調査対象 介護保険の要支援・要介護認定者のうち、施設サービス受給者を除いた第1号被保険者から無作為抽出した4,544人
3. 調査方法 介護保険相談員による訪問配布、訪問回収
4. 調査期間 平成22年10月14日～11月30日
5. 回収結果 回収数(票): 3,373件(回収率74.2%)
うち、自宅生活者又は6か月未満の短期入院者2,806人
6. 調査内容 <この概要版では 印のついた設問について紹介しています。>

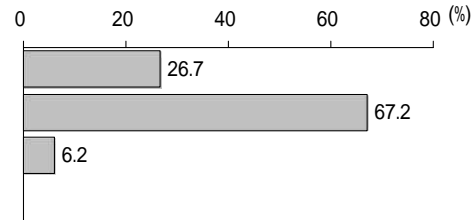
<p>(1) 対象者の属性</p> <ul style="list-style-type: none"> 記入者・ご本人の居場所 入院先の医療機関の所在地・入院期間 性別・年齢・世帯の状況・要介護度 <p>(2) 暮らしについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立度 日常生活上の相談相手 在宅で受けている医療援助 <p>(3) サービスの利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月に主に利用したサービスの有無 夜間対応型訪問介護の利用状況 夜間対応型訪問介護の未利用の理由 9月時点でサービスを利用しなかった理由 ショートステイの利用状況 <p>(4) 住まい方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 住居形態 住居の在宅介護への適・不適 在宅生活に適していない理由 <p>(5) 施設の入所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設への入所希望 希望する施設の種別 施設入所を希望する理由 	<p>(6) 介護保険制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスの満足度 介護保険料の負担感 介護保険サービス利用の費用の確認 事業所を知った経緯 今後区で力を入れていくべきこと <p>(7) 主な介護者について</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な介護者の続柄・年齢 主な介護者の健康状態 高齢者ご本人との同居の状況 主な介護者の介護時間帯・介護年数 主な介護者以外の介護者の有無 サービス利用による介護負担軽減感 介護保険サービス全般の満足度 介護をする上で困っていること 介護のことで困った時の相談先 介護者が求めるサービス 介護者のこころの状態 在宅介護生活の見通し 最近6か月間の本人との衝突の有無 高齢者ご本人の認知症の程度 <p>(8) 自由回答</p>
---	---

【介護保険に関する調査】 調 査 結 果

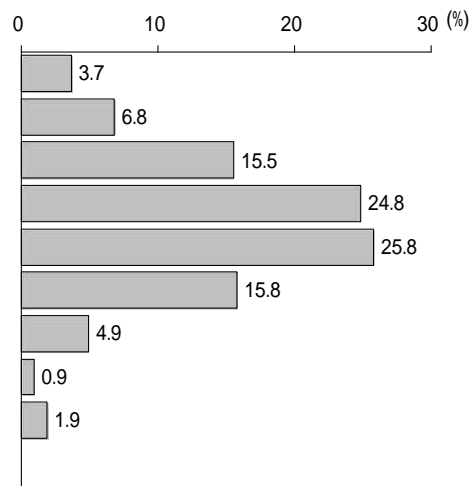
(1) 対象者の属性

性別・年齢(問3)

	基数	構成比
男性	748	26.7%
女性	1,885	67.2%
無回答	173	6.2%
全 体	2,806	100.0%

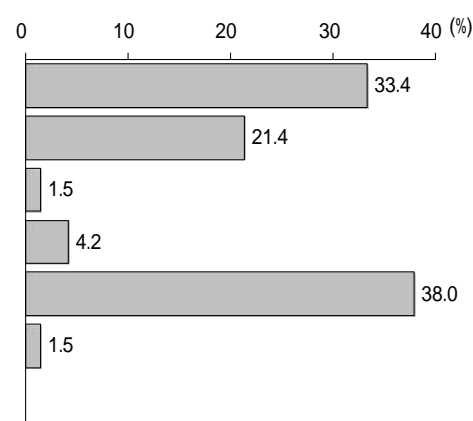


	基数	構成比
65～69歳	104	3.7%
70～74歳	191	6.8%
75～79歳	435	15.5%
80～84歳	695	24.8%
85～89歳	724	25.8%
90～94歳	442	15.8%
95～99歳	137	4.9%
100歳以上	26	0.9%
無回答	52	1.9%
全 体	2,806	100.0%

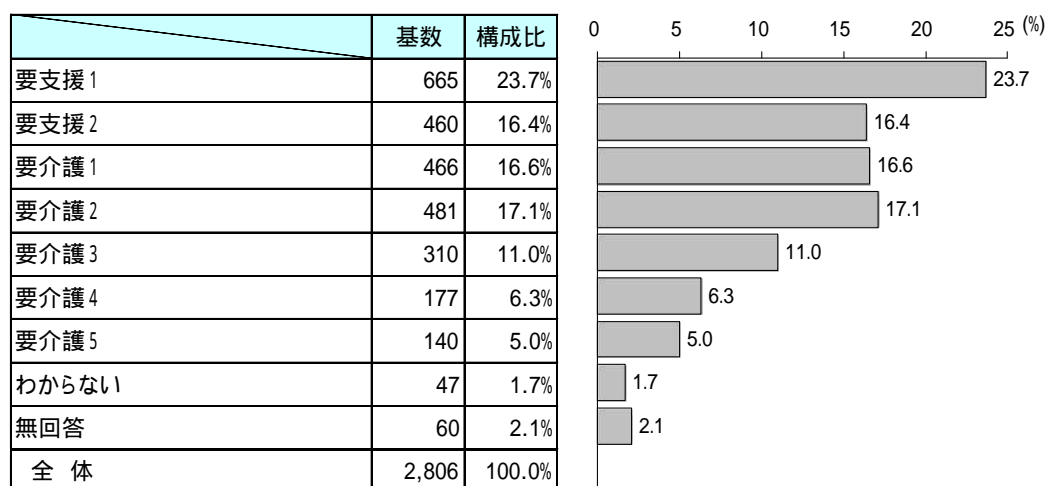


世帯の状況(問4)

	基数	構成比
単身(ご本人ひとり暮らし)	936	33.4%
夫婦のみの世帯(夫婦のどちらとも65歳以上)	601	21.4%
夫婦のみの世帯(配偶者が64歳以下)	42	1.5%
世帯員全員が65歳以上の世帯(夫婦のみの世帯は除く)	119	4.2%
その他の世帯(同居世帯)	1,066	38.0%
無回答	42	1.5%
全 体	2,806	100.0%



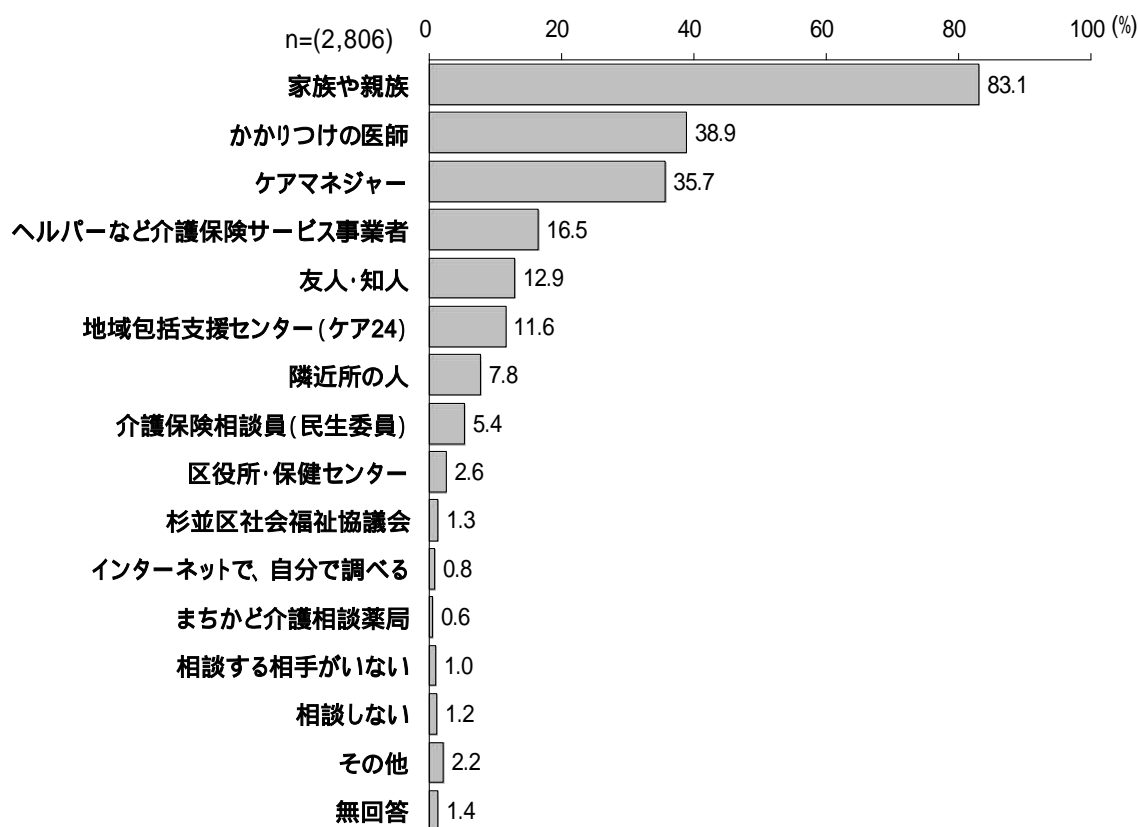
要介護度(問6)



(2) 日頃の暮らしについて

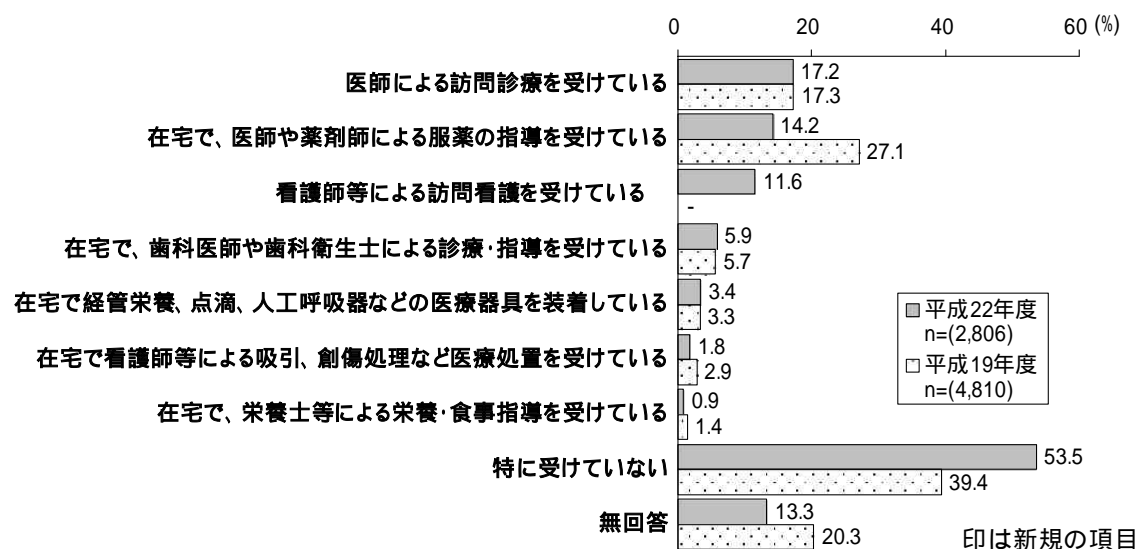
日常生活上の相談相手(問8)

不安な時の相談先は、「家族や親族」の割合が83.1%で最も多く、以下、「かかりつけの医師」(38.9%)、「ケアマネジャー」(35.7%)、「ヘルパーなど介護保険サービス事業者」(16.5%)、「友人・知人」(12.9%)、「地域包括支援センター(ケア24)」(11.6%)、「隣近所の人」(7.8%)の順となっている。



在宅で受けている医療援助(問9)

受けている援助の中では、「医師による訪問診療を受けている」の割合が17.2%で最も多く、以下、「在宅で、医師や薬剤師による服薬の指導を受けている」(14.2%)、「看護師等による訪問看護を受けている」(11.6%)の順となっている。

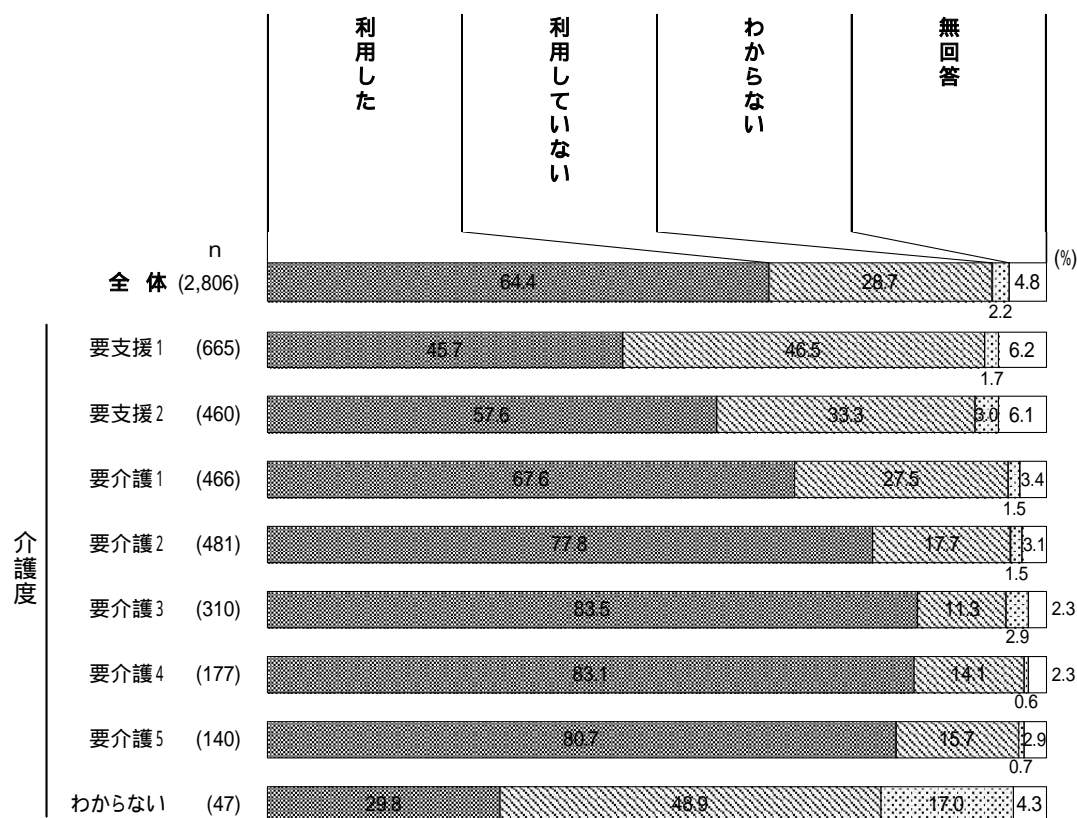


(3) サービスの利用状況について

9月のサービス利用の有無(問10)

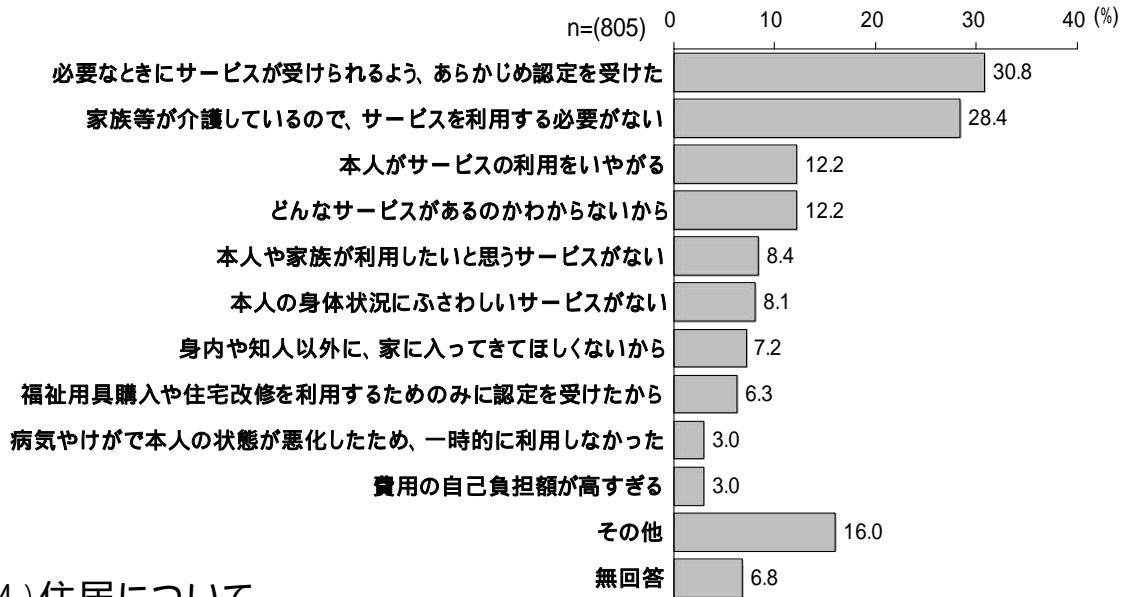
介護保険サービスについて、「利用した」の割合は64.4%となっている。

介護度別で見ると、サービスの利用割合は、介護度があがるほど増加しており、要介護3で最大となっている。



9月時点でサービスを利用しなかった理由(問12)

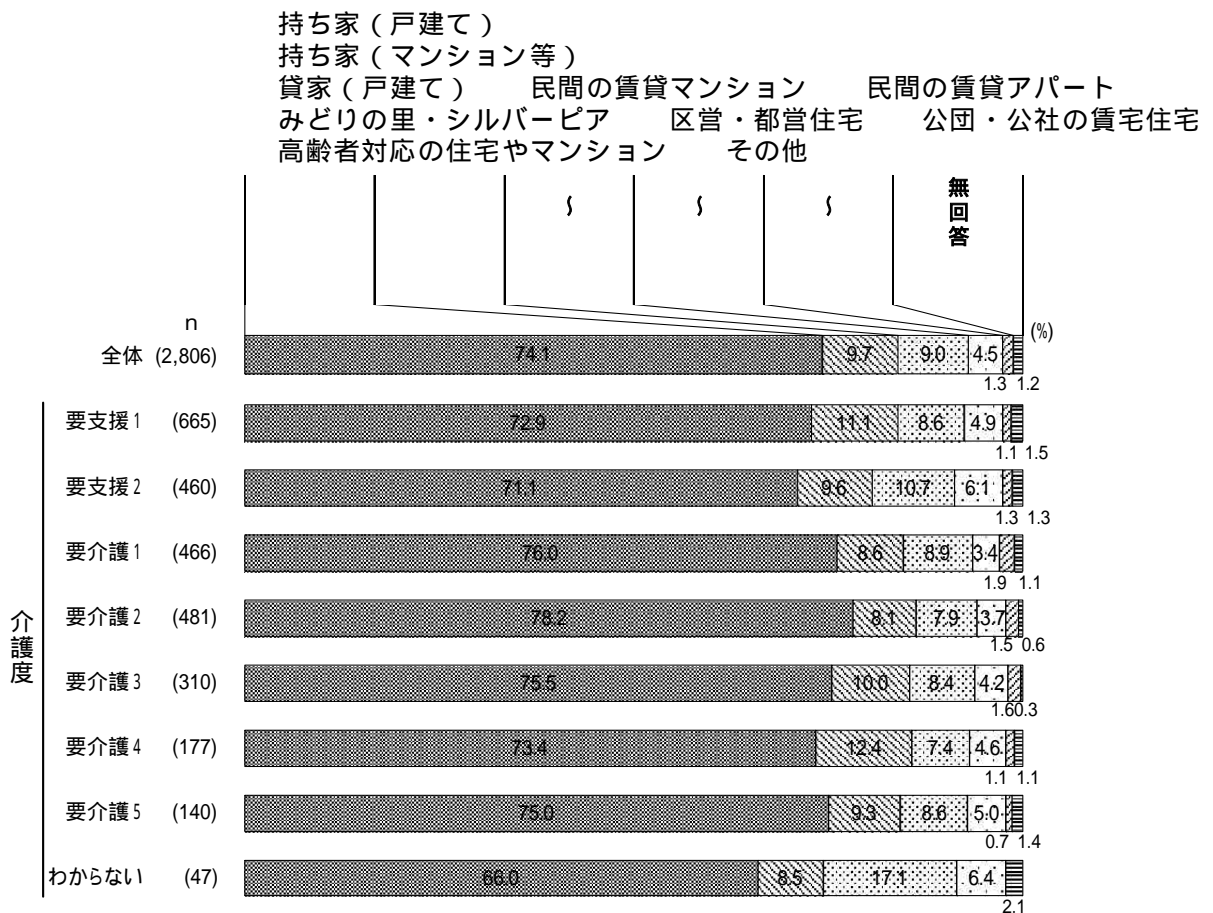
介護保険サービスを利用していない理由は、「必要ときにサービスが受けられるよう、あらかじめ認定を受けた」の割合が30.8%で最も多く、以下、「家族等が介護しているので、サービスを利用する必要がない」(28.4%)の順となっている。



(4) 住居について

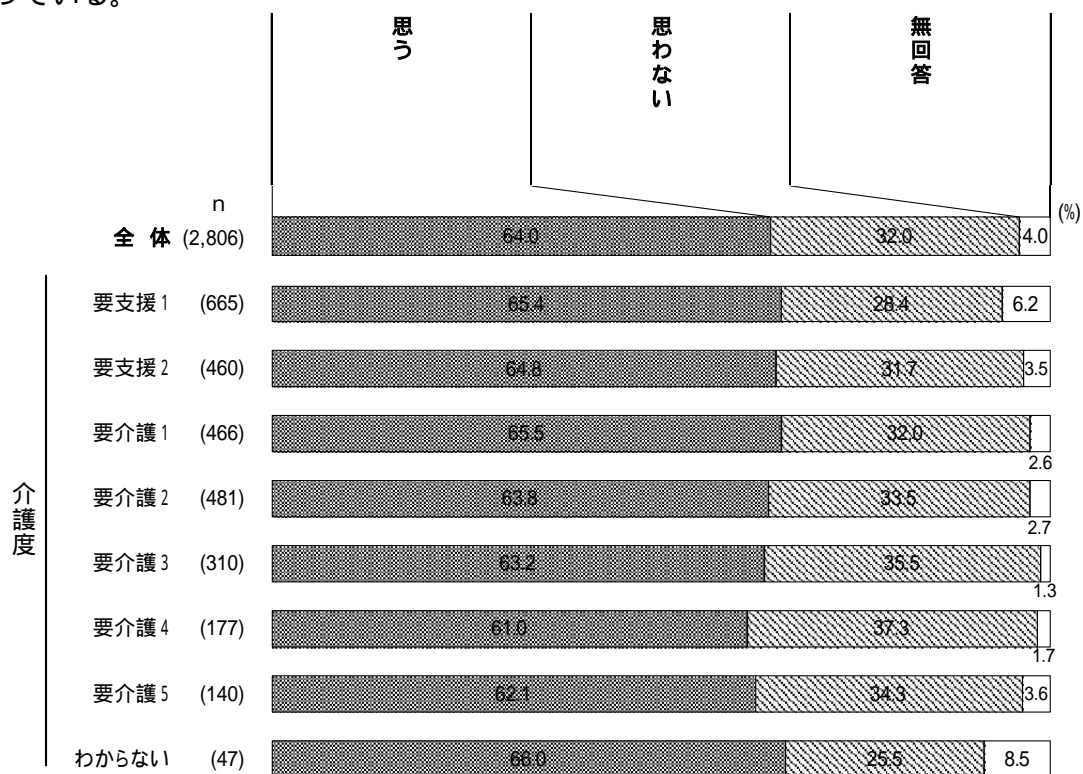
住居形態(問14)

住居形態は、「持ち家(戸建て)」の割合が74.1%で最も多く、以下、「持ち家(マンション等)」(9.7%)の順となっている。



住居の在宅介護への適・不適(問15)

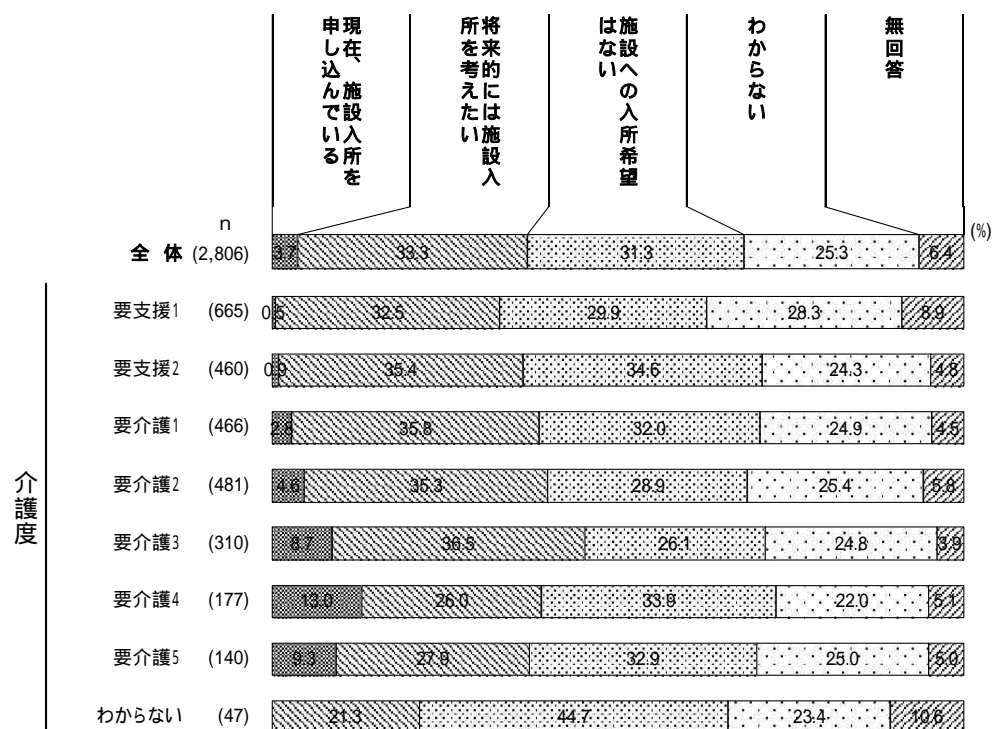
在宅生活を送るのに適した住居と思うかについては、「思う」(64.0%)、「思わない」(32.0%)となっている。



(5)施設入所について

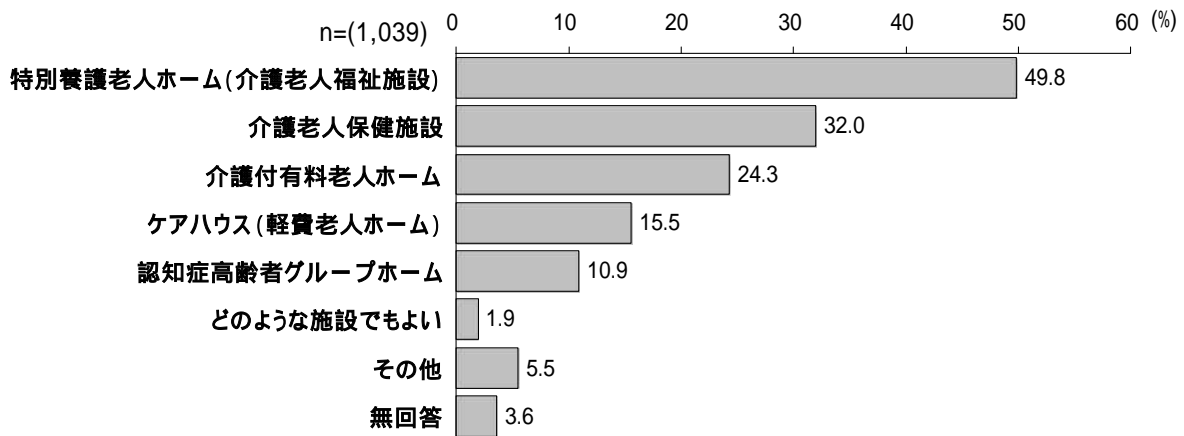
施設への入所希望(問16)

施設入所の希望は、「将来的には施設入所を考えたい」の割合が33.3%となっている。



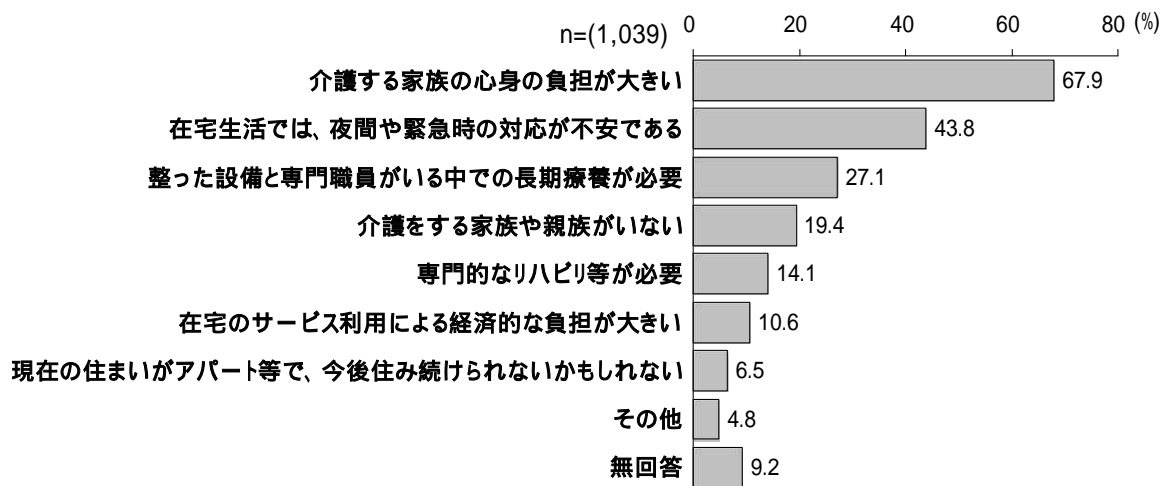
希望する施設の種別(問16 - 1)

入所を希望する施設は、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」の割合が49.8%で最も多く、以下、「介護老人保健施設」(32.0%)、「介護付有料老人ホーム」(24.3%の順となっている。



施設入所を希望する理由(問16 - 2)

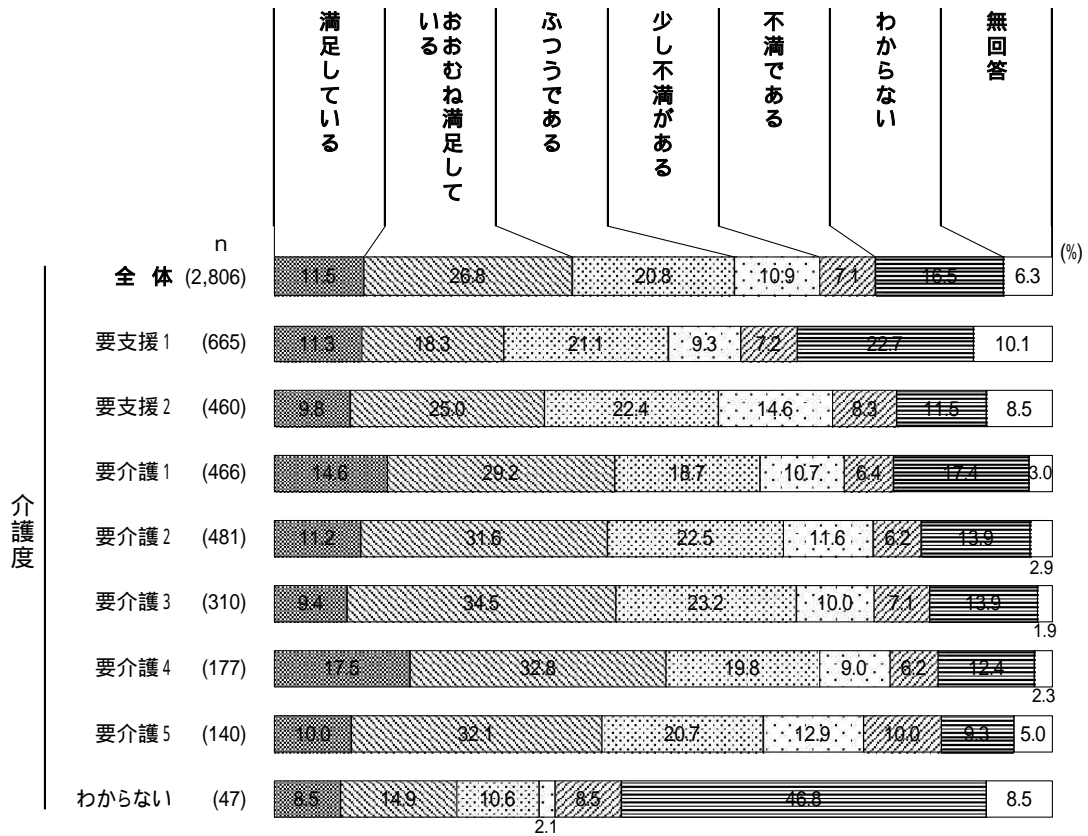
施設入所を希望する理由は、「介護する家族の心身の負担が大きい」の割合が67.9%で最も多く、以下、「在宅生活では、夜間や緊急時の対応が不安である」(43.8%)、「整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要」(27.1%)の順となっている。



(6) 介護保険制度について

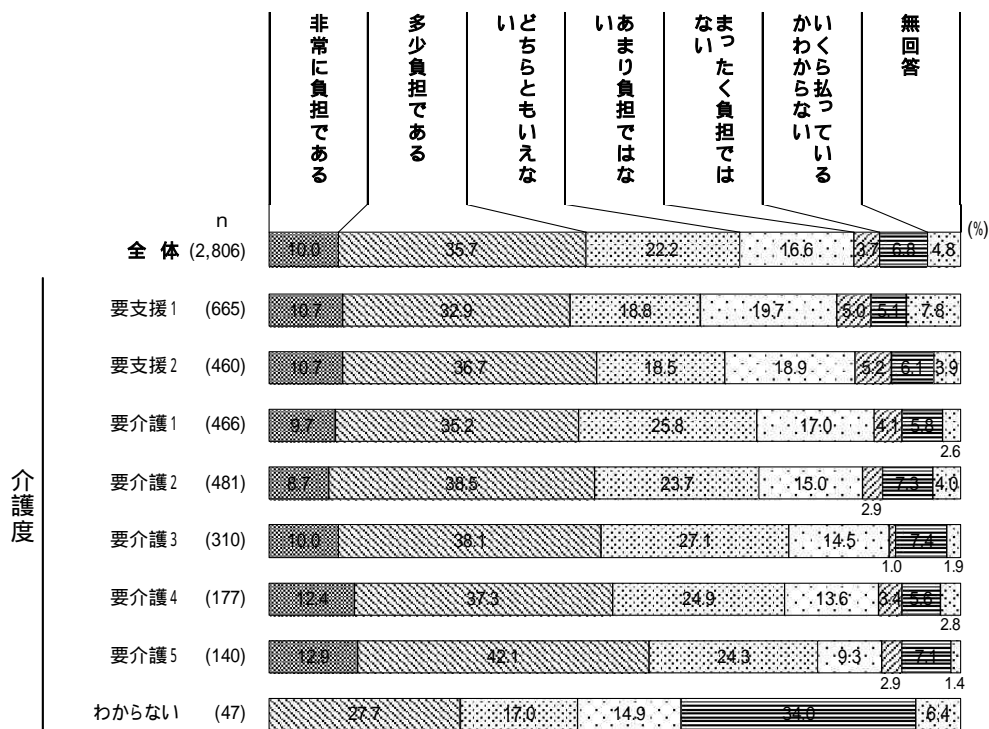
介護保険サービスの満足度(問17)

介護保険サービスの満足度は、「おおむね満足している」の割合が26.8%で最も多く、これに「満足している」(11.5%)を合わせると、38.3%が《満足(計)》と回答している。



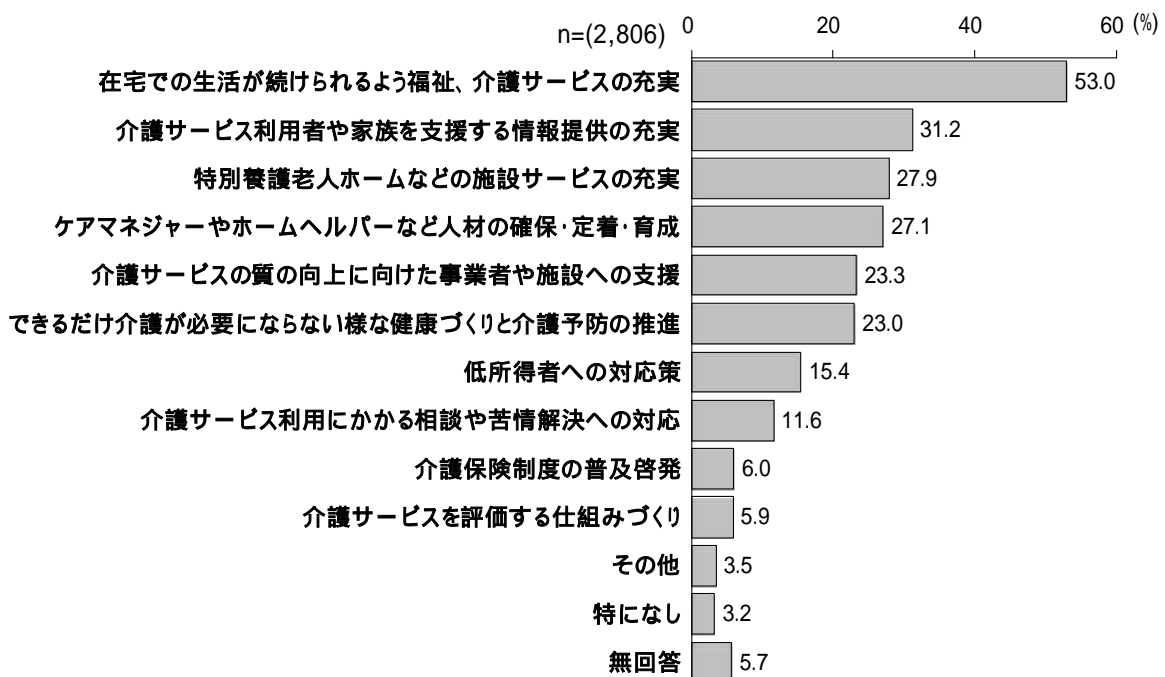
介護保険料の負担感(問18)

介護保険料の負担感は、「多少負担である」の割合が35.7%で最も多く、これに「非常に負担である」(10.0%)を合わせると、45.7%が《負担である(計)》と回答している。



今後区が力を入れていくべきこと(問21)

今後、区が力を入れていくべきと思うものは、「在宅での生活が続けられるよう福祉、介護サービスの充実」の割合が53.0%で最も多く、以下、「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」(31.2%)、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」(27.9%)の順となっている。

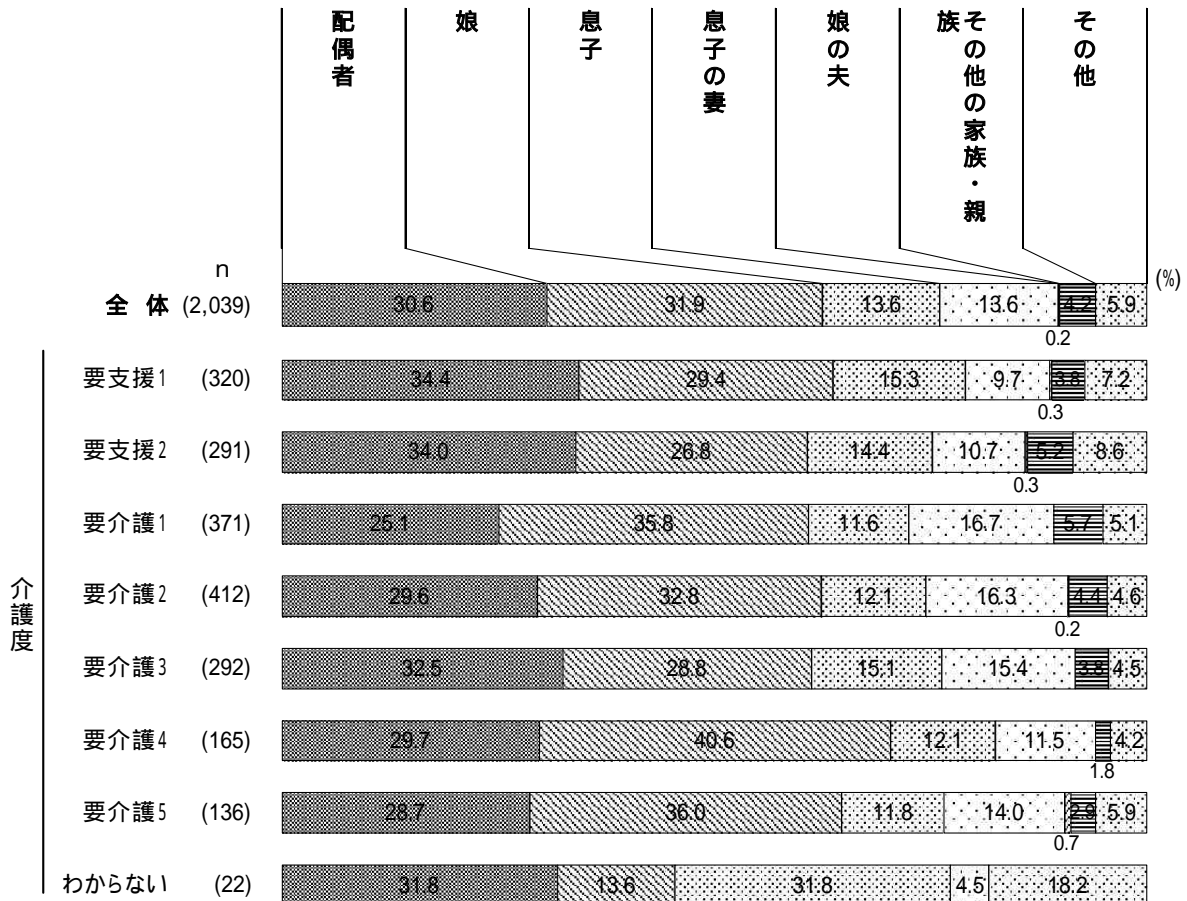


(7) 主な介護者の状況について

主な介護者の続柄(問22)

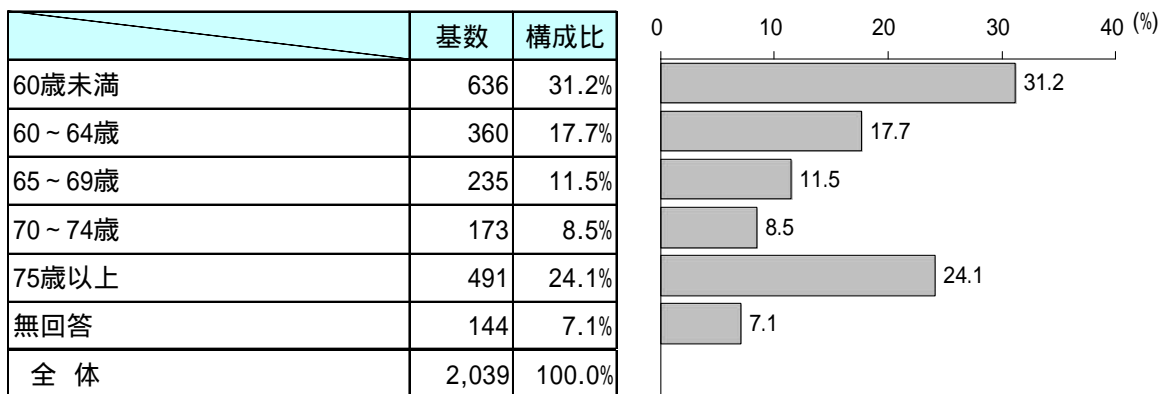
主な介護者は、「娘」の割合が31.9%で最も多く、以下、「配偶者」(30.6%)、「息子」(13.6%)、「息子の妻」(13.6%)の順となっている。

介護度別で見ると、どの介護度とも「配偶者」と「娘」で半数以上を占める。



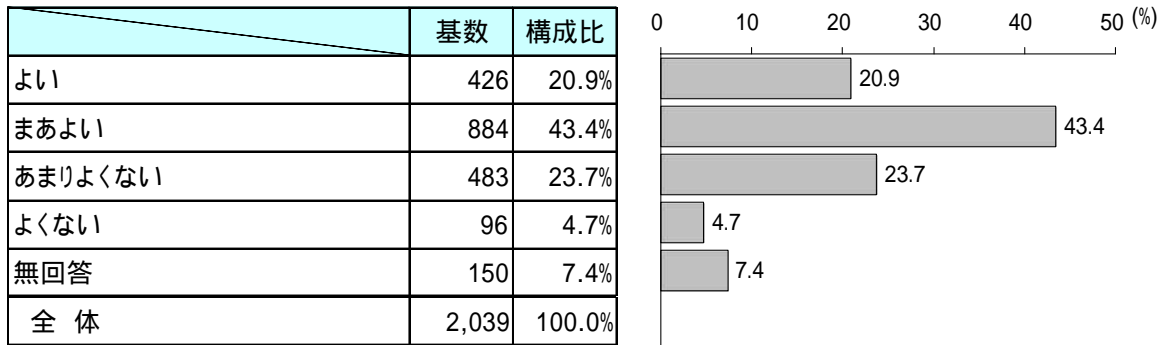
主な介護者の年齢(問23)

主な介護者の年齢は、「60歳未満」(31.2%)、「75歳以上」(24.1%)の順となっている。



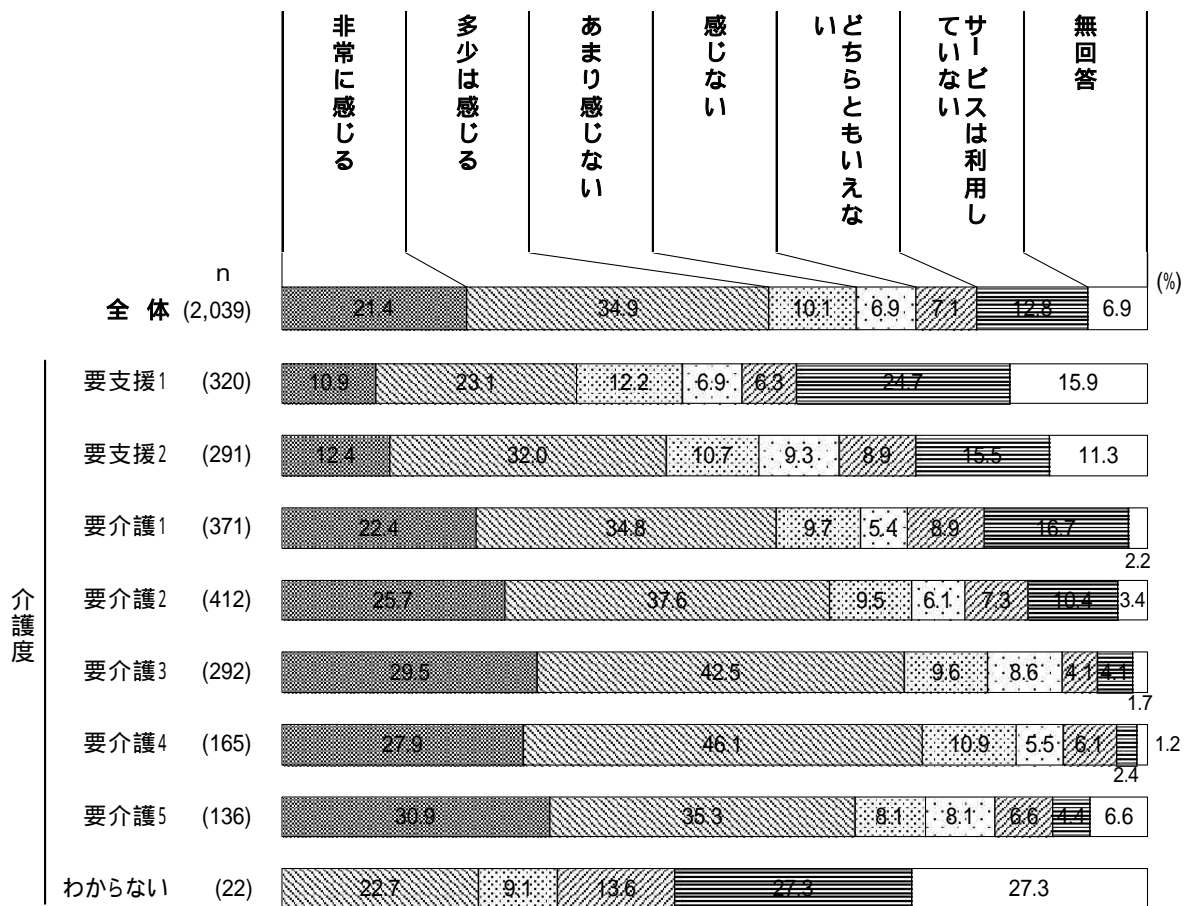
主な介護者の健康状態(問23)

主な介護者の健康状態は、「まあよい」(43.4%)が最も多くなっている。



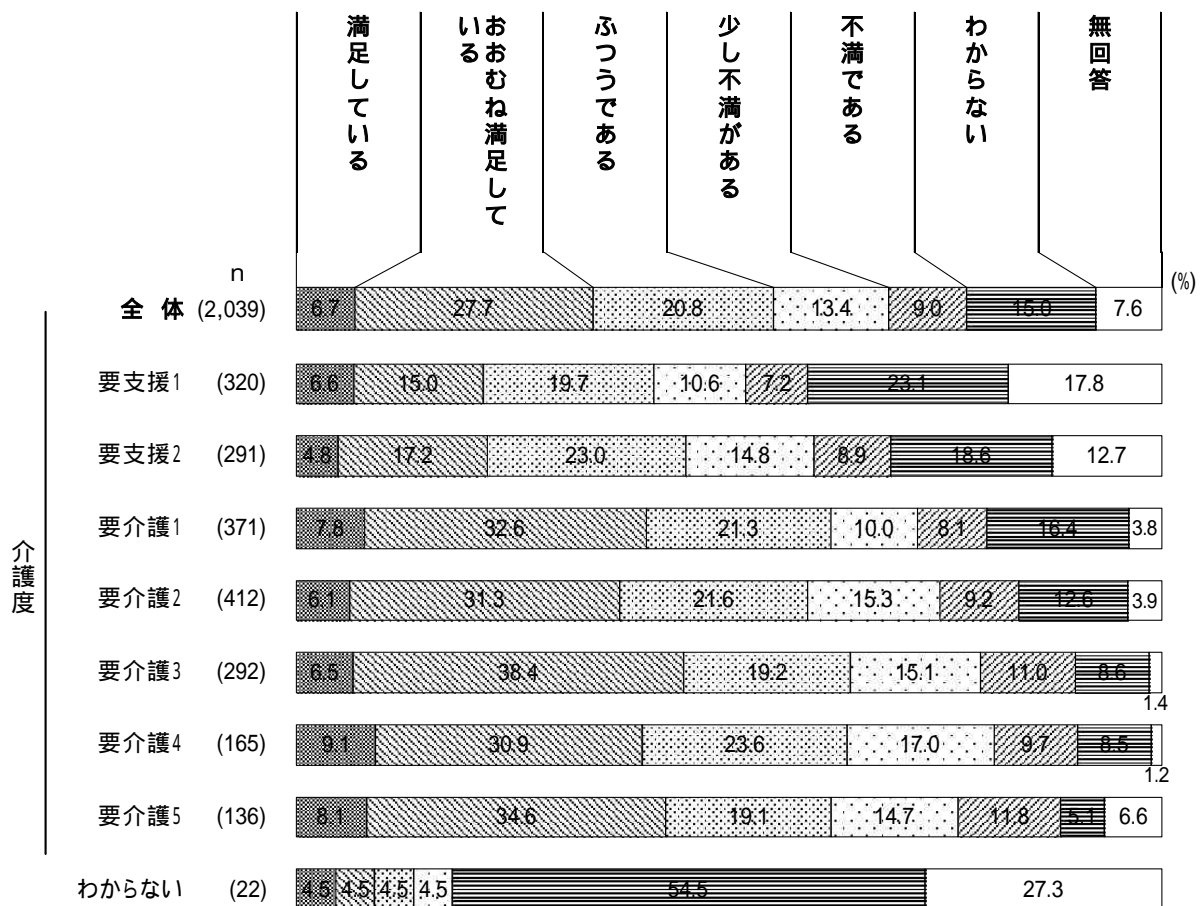
サービス利用による負担の軽減感(問25)

介護保険による介護負担の軽減は、「多少は感じる」の割合が34.9%で最も多く、これに「非常に感じる」(21.4%)を合わせると、56.3%が《感じる(計)》と回答している。



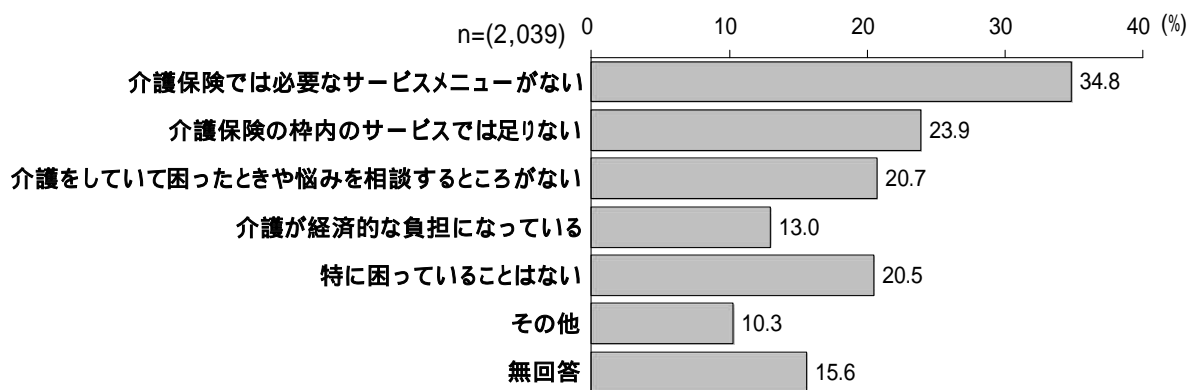
介護保険サービスの満足度(問26)

介護保険の満足度(介護者)は、「おおむね満足している」の割合が27.7%で最も多く、これに「満足している」(6.7%)を合わせると、34.4%が《満足(計)》と回答している。



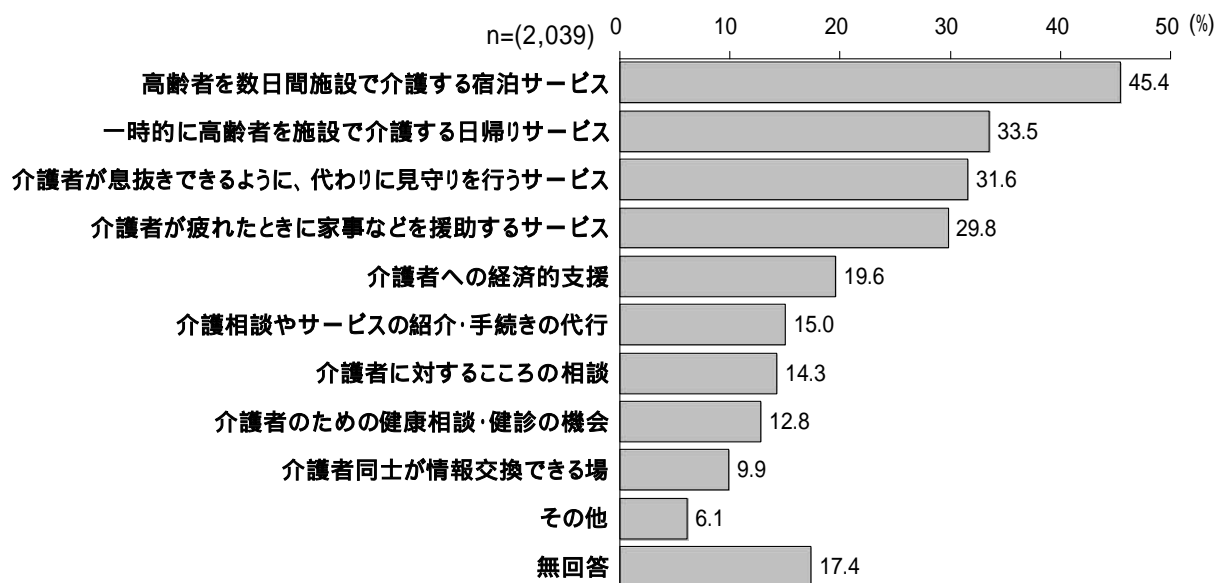
介護する上で困っていること(問27)

介護をする上で困っていることは、「介護保険では必要なサービスメニューがない」の割合が34.8%で最も多くなっている。



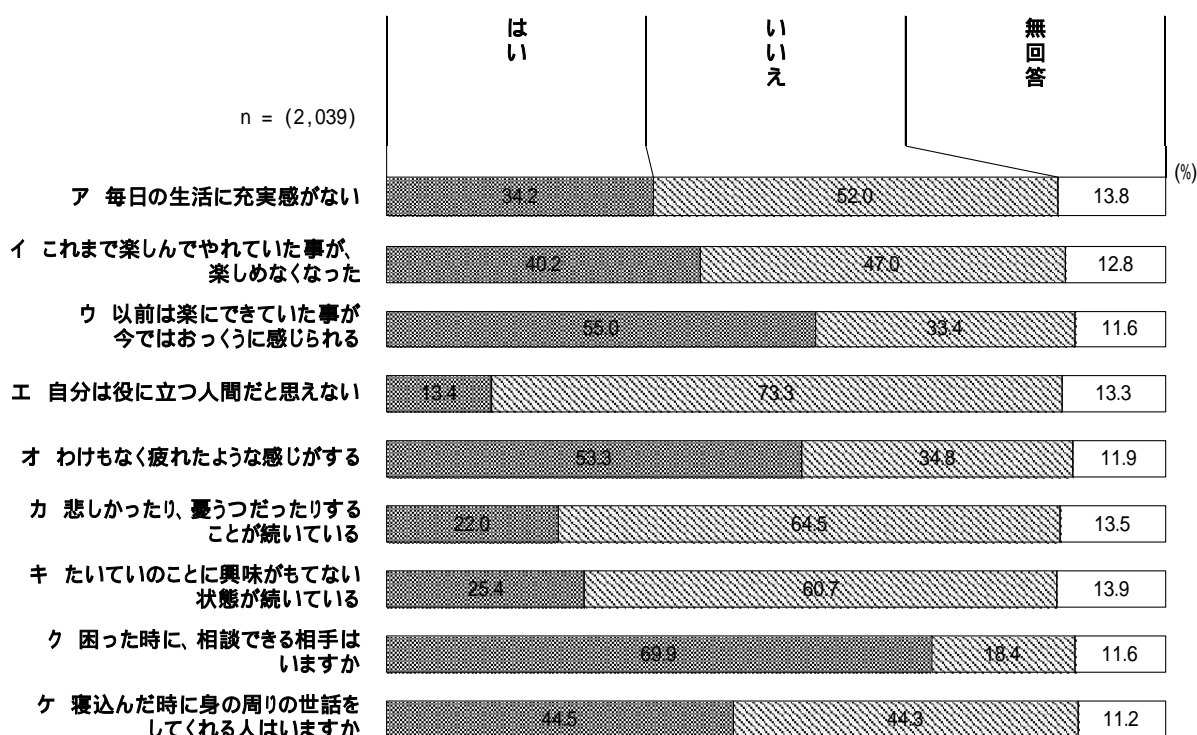
介護者が求めるサービス(問29)

介護が必要とするサービスは、「高齢者を数日間施設で介護する宿泊サービス」の割合が45.4%で最も多く、以下、「一時的に高齢者を施設で介護する日帰りサービス」(33.5%)、「介護者が息抜きできるように、代わりに見守りを行うサービス」(31.6%)の順となっている。



介護者のこころの状態(問30)

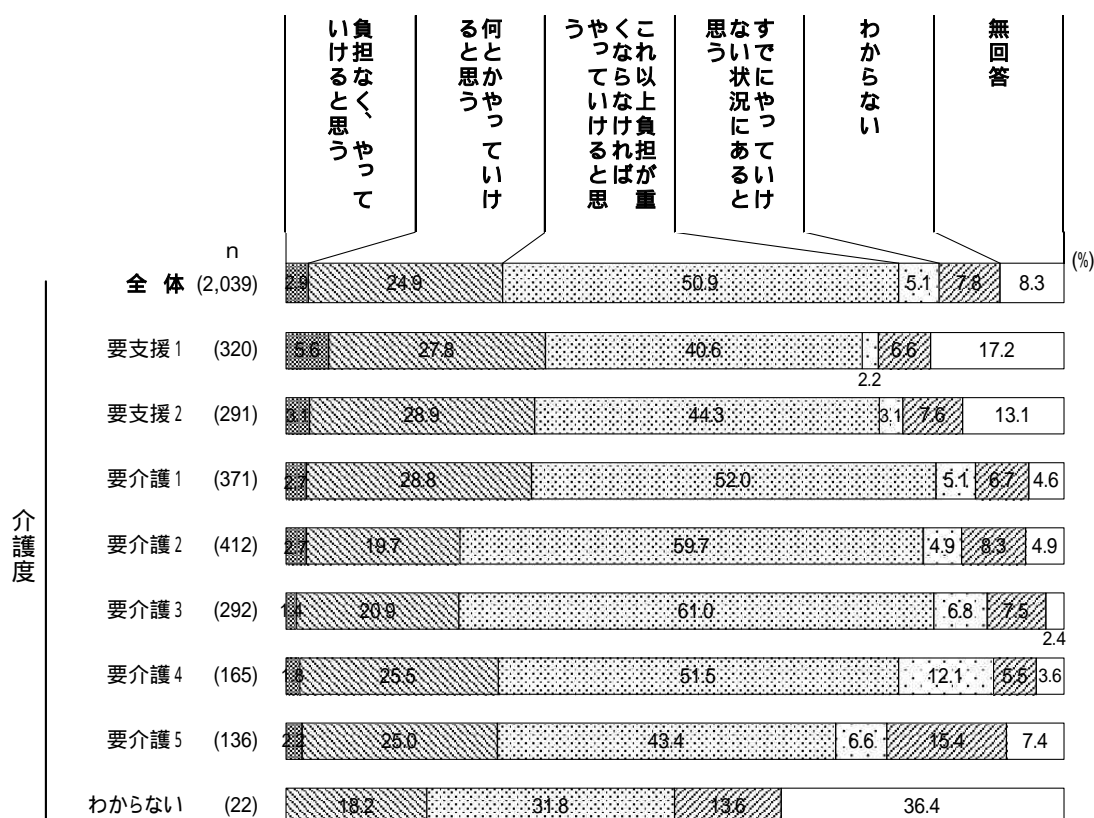
介護者の精神的負担に関わる質問では、『ウ 以前は楽にできていた事が今ではおっくうに感じられる』(「はい」55.0%)、「ケ 寝込んだ時に身の周りの世話をしてくれる人はいますか」(「いいえ」44.3%)、「イ これまで楽しんでやれていた事が、楽しめなくなった」(「はい」40.2%)の割合が多くなっている。



在宅介護生活の見通し(問31)

今後も在宅介護を続けられる見通しは、「これ以上負担が重くならないかやっと思ふ」の割合が50.9%で最も多く、以下、「何とかやっと思ふ」(24.9%)、「わからない」(7.8%)、「すでにやっと思ふ状況にあるかやっと思ふ」(5.1%)、「負担なく、やっと思ふ」(2.9%)の順となっている。

介護度別で見ると、要介護2～3の場合、「これ以上負担が重くならないかやっと思ふ」の割合が特に多くなっている。



杉並区高齢者実態調査報告書 [登録印刷物番号22-0120] 高齢者の生活実態と意識に関する調査 介護保険に関する調査

概要版

平成23年3月発行

【発行】杉並区 保健福祉部 高齢者施策課

杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03(3312)2111(代)